

履修要綱

2024年度入学生

● 共通教育科目群の履修について

ベシク・スキル、リベラルアーツ及びキャリアデザインから、必ず卒業に必要な単位数以上を修得してください。

	卒業要件単位	備考
必修科目	10単位	ベシク・スキル
選択科目	10単位	リベラルアーツから10単位以上修得すること。 キャリアデザインでの修得単位は、「その他科目」として認定。ただし、教育学科は「専門教育科目群」として認定。 留学生については、日本語コミュニケーションの修得単位を認定することができる。(ただし、外国語必修科目に代えた修得単位は認定することができない。各学科の卒業要件を参照)
計	20単位	

語句の説明

- 必修……………必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
- 選択……………自由に選択、履修できる科目
- 配当年次……………表中「1」とあるのは、1年次に履修できる科目という意味で、「2」「3」「4」であれば1年次生は履修できません。
- 集中講義……………短期間に集中的に行う授業です。「授業時間割表」で確認してください。

2024年度入学生 共通教育科目群カリキュラム

免許・資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

必修科目 (10単位)

授業科目名	単位		配当年次	教員免許	保育士	主日本語教員	備考
	必修	選択					
ベシク・スキル (10単位)	基礎演習Ⅰ	1	1				注①
	基礎演習Ⅱ	1	1				
	健康行動学	2	1	◆	◆		
	ICT基礎Ⅰ	1	1	◇			注⑤
	ICT基礎Ⅱ	1	1	◇			注⑤
	総合英語Ⅰ	1	1	◆	◆		注②
	総合英語Ⅱ	1	1	◆	◆		
	ワーク&ライフデザインⅠ	1	1				
	ワーク&ライフデザインⅡ	1	2				

注① 「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」の担当者は、履修登録時に配付するクラス編成表に記載しています。
注② 「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」は、グレード別のクラスになります。年度初めに英語クラス分けテストを受検し、その成績により受講クラスを決定します。

選択科目 (10単位以上)

授業科目名	単位		配当年次	教員免許	保育士	主日本語教員	備考
	必修	選択					
外国語コミュニケーション	Interactive EnglishⅠ	1	1				
	Interactive EnglishⅡ	1	1				
	Interactive EnglishⅢ	1	2				
	Interactive EnglishⅣ	1	2				
	Interactive EnglishⅤ	1	3				
	Interactive EnglishⅥ	1	3				
	Face to Face English	1	1				人数制限あり
	留学英語	1	1				
	中国語Ⅰ	1	1				
	中国語Ⅱ	1	1				
	韓国朝鮮語Ⅰ	1	1				人数制限あり
	韓国朝鮮語Ⅱ	1	1				人数制限あり
文化の中の人間	哲学	2	1				
	心理学概論	2	1			◇	
	文学と文化	2	2				
リベラルアーツ (10単位以上)	法学	2	1				
	社会学	2	1				
	日本国憲法	2	1	◆	◇		
	政治学	2	1				
	経済学	2	1				
	ボランティア実習	1	1				集中講義
	世界の現状と課題	2	1				
	情報と社会	2	2				◇
	現代と金融	2	2				
	人権問題	2	2				
現代社会と市民	高大連携科目	1	1				集中講義「探究」クラスと「教育」クラスがあり
	女性学	2	1				◇
女性と社会	少子社会	2	2				
	基礎体育学	1	1	◆	◆		注③
生命と自然	物理学	2	1				
	栄養学	2	1				
	数学	2	1				
	地球環境	2	2				
多文化を生きる	神戸学	2	2				
	多文化社会	2	2				◇
	国際理解教育論	2	2				◇
	海外語学研修	3	1				集中講義
	アジア文化研修	2	1				集中講義
情報リテラシー	情報科学	2	1				
	メディア・リテラシー論	2	2				◆ 日本語教員(副)は選択科目
	AIとデータサイエンス	2	1	◇			注⑤
	情報数学	2	2				
	情報処理演習A	2	2				
情報処理演習B	2	2					

授業科目名	単位		配当年次	備考
	必修	選択		
プロジェクトペイストラニング基礎A	2	1		
プロジェクトペイストラニング基礎B	2	2		
キャリアデザインA	1	2		
キャリアデザインB	2	3		
職業能力基礎A	2	2		
職業能力基礎B	2	2		
実践教育活動A	1	1		大学の指定する課外活動を行った場合、その時間数を年度末に付与
実践教育活動B	1	2		詳細は Shinwa Smile.net 確認のこと
実践教育活動C	1	2		
実践教育活動D	1	2		
資格認定科目A	2	1		
資格認定科目B	2	1		p.71を参照すること
資格認定科目C	2	1		
インターンシップA	1	2		
インターンシップB	1	2		

日本語コミュニケーション(外国語学部留学生対象)	単位	配当年次	備考
アカデミック・ジャパニーズⅠ	1	1	注④
アカデミック・ジャパニーズⅡ	1	1	
アカデミック・ジャパニーズⅢ	1	1	
アカデミック・ジャパニーズⅣ	1	2	
アカデミック・ジャパニーズⅤ	1	2	
アカデミック・ジャパニーズⅥ	1	2	
総合日本語Ⅰ	1	1	
日本語(漢字・語彙)	1	1	
総合日本語Ⅱ	1	1	
日本語(文法)	1	1	

注③ 「基礎体育学」の履修に際し、健康上の理由等で運動の制限が必要になる場合、集中講義欄の「基礎体育学」を履修してください。
注④ 留学生は、学則第7条に定める共通教育科目群外国語必修科目に代えて、履修することができます。「外国語学部留学生の履修に関する内規」(p.150)を参照してください。
注⑤ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」科目です。詳しくは(p.101)を参照してください。

● 国際文化学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目 10単位	p.86参照
	選択科目 10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目 32単位	基本科目14単位 演習科目18単位
	選択科目 40単位以上	基幹科目、学部内共通科目及び発展科目から40単位以上修得すること
免許資格科目・その他科目	選択科目 32単位以上	・ p.87のキャリアデザイン科目 ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目及び資格等科目（エクステンション科目） p.100参照 ・ 本学通信教育部での修得単位 ・ 留学による修得単位※① ・ 協定大学での修得単位※①
	計 124単位以上	

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

コース説明

- ①日本語・日本文化コース：日本と世界の文化やメディアを学び、海外でのインターンシップを実施し、日本はもちろん海外でも活躍できる人材の育成や日本語教員や国語科教員（中・高）を養成します。
- ②国際コミュニケーションコース：2年次に1年間の海外留学を体験します。留学先で語学力を高めるとともに、多様な人々との交流を通して異なる価値観や文化を体感します。
- ③情報コミュニケーションコース：ICTの知識とスキルを学び、情報活用能力を身につけて、これらを活用して協働的に課題解決に取り組める人材を養成します。

2024年度入学生 国際文化学科専門教育科目群カリキュラム

免許・資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

必修科目（32単位）

授業科目名	単位		配当年次	教免(国)	日本語(主)	日本語(副)	基礎教養(主)	基礎教養(副)	備考
	必修	選択							
基本科目 (14単位)	国際文化概論	2	1		◇	◇			
	国際ボランティア論	2	1		◆	◆			
	情報とコミュニケーション	2	1		◇	◇	◆	◆	
	日本文化史	2	3		◆	◇			
	TOEIC I	1	1						
	TOEIC II	1	1						
	異文化コミュニケーション論	2	3		◆	◆			
	東アジア文化論	2	1		◆	◆			
演習科目 (18単位)	国際文化基礎演習Ⅰ	2	2						
	国際文化基礎演習Ⅱ	2	2						
	国際文化専門演習Ⅰ	2	3						
	国際文化専門演習Ⅱ	2	3						
	国際文化専門演習Ⅲ	2	4						
	国際文化専門演習Ⅳ	2	4						
	卒業研究	6	4						注①

注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規」(p.148)を参照してください。

選択科目（40単位以上）

授業科目名	単位		配当年次	教免(国)	日本語(主)	日本語(副)	基礎教養(主)	基礎教養(副)	備考	
	必修	選択								
日本語・日本文化コース	日本語リーディング&ライティングⅠ	1	2						◇	
	日本語リーディング&ライティングⅡ	1	2						◇	
	日本文学史	2	1		◆	◇				
	日本文学概論	2	1		◆					
	日本語学概論	2	2		◆	◇				
	漢文学概論	2	1		◆					
	日本語音声学	2	2		◆	◆				
	日本語表現法	2	2		◆				◇	
	書道	1	2		◆				教免(国) (中一種のみ必修 人数制限あり)	
	日本語教授法(初級)	2	2		◆	◆				
	日本語教授法(中上級)	2	3		◆	◆				
	コースデザインと多文化協働	2	3		◆	◆				
	日本文化体験	2	2		◇	◇			人数制限あり	
	社会言語学	2	3		◆	◆				
基幹科目 国際コミュニケーションコース	長期留学事前指導	1	1							
	長期留学Ⅰ	1	3							
	長期留学Ⅱ	1	3							
	英語発音トレーニング	1	1							
	English Vocabulary Building	1	1							
	TOEFLⅠ	1	1							
	TOEFLⅡ	1	1							
	中国語コミュニケーションⅠ	1	1							
	中国語コミュニケーションⅡ	1	1							
	中国語コミュニケーションⅢ	1	3							
中国語コミュニケーションⅣ	1	3								
情報コミュニケーションコース	情報基礎論	2	1						◆	
	情報社会への参画と倫理	2	1						◆	
	情報ビジネス論	2	2						◆	
	プログラミングⅠ	2	1						◆	
	プログラミングⅡ	2	2						◇	
	ウェブデザイン	2	3						◇	
	デジタル表現	2	1						◇	
	プロジェクトベースラーニング演習Ⅰ	2	2						◇	
	プロジェクトベースラーニング演習Ⅱ	2	3						◇	
	情報と統計	2	1						◇	
	情報とデザイン	2	2		◆	◇			◇	
	色彩学	2	2						◇	
	発展科目 国際コミュニケーションコース	デザイン思考論	2	1						◇
社会イノベーション論		2	2						◇	
プレゼンテーションの技法		2	2						◇	
ビジネス心理学		2	1						◇	
経済心理学		2	2						◇	
マーケティング論		2	2						◇	
日本語・日本文化コース		日本文学講読(古典)	2	3		◇				
		日本文学講読(現代)	2	3		◇				
		日本文学講義	2	3		◇				
		日本語文法(古典)	2	2		◇	◇			
		日本語文法(現代)	2	3		◆	◆			
		書道史	2	2		◇				教免(国) (中一種のみ選択)
		日本語史	2	3		◆	◇			
		漢文学講読	2	3		◇				
		文章の技術	2	1		◇	◇			◇
		話し方の技術	2	2		◇	◇			◇
マンガ・アニメと日本のポピュラーカルチャー		2	3		◇	◇				
日本語教育実習(海外)	2	2		◆	◆			集中講義 注②		
日本語教育実習(国内)	2	4		◆	◆					
国際コミュニケーションコース	TOEICⅢ	1	3							
	TOEFLⅢ	1	3							
	TOEFLⅣ	1	3							
	日英翻訳ワークショップ	1	4							
	日英通訳ワークショップ	1	3							
	ビジネス英語	1	3							
	観光英語	1	3							
	英語プレゼンテーション	2	3							
	中国語プレゼンテーション	2	3							
	比較文化論	2	3		◇	◇				
	英語学概論	2	2		◇	◇				
	英語文学概論	2	1							
	英語文学作品研究A	2	3							
英語文学作品研究B	2	3								
貿易実務	2	3								
エアライン演習	2	1								
情報コミュニケーションコース	WEBプログラミング入門	2	3						◇	
	ネットワークと情報セキュリティ	2	3						◇	
	コンピュータグラフィックス	2	3						人数制限あり	
	色彩心理学	2	2							
	デジタルと文化	2	3							

注② 日本語教員資格関係科目(主・副専攻)を履修する場合、海外か国内のいずれかを修得すること。

● 心理学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目 10単位	p.86参照
	選択科目 10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目 34単位	基本科目16単位 演習科目18単位
	選択科目 42単位以上	基幹科目、学部内共通科目及び発展科目から42単位以上修得すること
免許資格科目・その他科目	28単位以上	・ p.87のキャリアデザイン科目 ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目 } エクステンション科目 p.100参照 ・ 資格等科目 ・ 本学通信教育部での修得単位 ・ 留学による修得単位※① ・ 協定大学での修得単位※①
計	124単位	

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

コース説明

- ①ビジネス・社会心理コース：心理の学びがどのように社会とつながるのかを体験的、具体的に理解すること、そして、心理学の知見をもとに、マーケティングや組織を円滑にする人間関係の構築に貢献できる力、自身の感情やストレスをコントロールする力を身に付けた人材を育成することを目指す。
- ②公認心理師・臨床心理士コース：心理臨床の基礎的知識から心理療法まで幅広く学び、心理学の知識をもとに人々の幸せや健康を支援する力を身に付けることを目的とする。そして、心理臨床の知識を持って児童福祉などの様々な福祉の現場で活躍する人材や、大学院と連携しながら6年一貫での教育体制をとり、公認心理師と臨床心理士の2つの資格を取得した心理専門職の養成を目指す。

心理実習の受講に関しては、入学（編入学）してから2年間で取得可能な公認心理師カリキュラム関連科目を取得したうえで、2年間の全体の成績と面接で選抜する。

2024年度入学生 心理学科専門教育科目群カリキュラム

必修科目 (34単位)

資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

授業科目名	単位		配当年次	認定心理士 注②	公認心理師 注③	備考
	必修	選択				
基本科目 (16単位)	臨床心理学概論	2	1	a副	◆	
	発達心理学概論	2	1	a副		
	感情・人格心理学	2	1	g	◆	
	心理学実験・実習A	1	1	c		
	心理学実験・実習B	1	1	c		
	学習・言語心理学	2	2	d	◆	
	社会・集団・家族心理学	2	2	h	◆	
	心理学研究法Ⅰ	2	2	b	◆	
	心理学的支援法	2	2		◆	
	心理学基礎演習Ⅰ	2	2			
演習科目 (18単位)	心理学基礎演習Ⅱ	2	2			
	心理学専門演習Ⅰ	2	3	i		
	心理学専門演習Ⅱ	2	3	i		
	心理学専門演習Ⅲ	2	4	i		
	心理学専門演習Ⅳ	2	4	i		
	卒業研究	6	4	i		注①

選択科目 (42単位以上)

授業科目名	単位		配当年次	認定心理士 注②	公認心理師 注③	備考
	必修	選択				
ビジネス・社会心理コース	経営学	2	1			
	企業分析論	2	2			
	広告心理学	2	3			
	消費者心理学	2	3			
	産業・組織心理学	2	3	h	◆	
	キャリア支援の心理学	2	3			
	社会心理学実験・実習	1	2	c		
	知覚・認知心理学	2	2	d	◆	
	色彩心理学	2	2	d副		
	色彩学	2	2			
基幹科目 公認心理師・臨床心理士コース	音楽心理学	2	2	i		
	心理学プログラミング実習	1	3			
	発達臨床心理学Ⅰ	2	2	g		
	発達臨床心理学Ⅱ	2	2	g		
	臨床心理学実習	1	2	g		
	カウンセリング	2	3	g		
	精神疾患とその治療	2	3	g副	◆	
	心理的アセスメント	1	3		◆	
	青年心理学	2	2	f		
	福祉心理学	2	2	g	◆	
	障害者・障害児心理学	2	3	g	◆	
	司法・犯罪心理学	2	3	g	◆	
	関係行政論	2	3		◆	
	公認心理師の職責	2	3		◆	
	心理演習	2	3		◆	
	心理実習	2	3		◆	集中講義
	子ども実習	1	2			集中講義
神経・生理心理学	2	3	e	◆		
健康・医療心理学	2	2	g副	◆		
人体の構造と機能及び疾病	2	3		◆		
学部内共通科目	デザイン思考論	2	1			
	社会イノベーション論	2	2			
	プレゼンテーションの技法	2	2			
	ビジネス心理学	2	1			
	経済心理学	2	2			
マーケティング論	2	2				
発展科目	脏いの心理学	2	1	h		
	家族心理学	2	1	h		
	子どもから見た世界	2	1			
	発達心理学	2	2	f	◆	
	教育・学校心理学	2	3	f	◆	
	神経心理学	2	2	e		
	自然環境と心理	2	1			集中講義
	スポーツ心理学	2	2	i		
	英書講読A	2	3			
	英書講読B	2	4			
	情報と統計	2	1	b副		
	心理学統計法	2	2	b	◆	
	多変量解析	2	4	b		
心理学研究法Ⅱ	2	3	b			
心理学実験	1	3	c	◆		
海外心理学研修	3	1			集中講義	

注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規」(p.148)を参照してください。
 注② 認定心理士欄のa~iは、認定心理士資格要件のための各領域を表します。(p.121参照)
 注③ 公認心理師欄以外に公認心理師受験資格取得の必修科目は、共通教育科目の「心理学概論」があります。(p.122参照)

● 教育学科専門教育科目群の履修について

①小学校・中学校教育コース：小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状（数学・英語）の取得を目指します。
 <小学校教育プラスコースは p.94、幼児教育・保育コースは p.96を参照してください。>

卒業要件

群	卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目 10単位	p.86参照
	選択科目 10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目 33単位	基本科目15単位 演習科目18単位
	選択科目 29単位	42単位 基本科目内の小学校教育科目より18単位以上に加え 数学：教科教育法Ⅰ～Ⅳを除く中学校教育科目(数学)より16単位以上 発展科目より8単位以上(*1から4単位)含むこと 英語：教科教育法Ⅰ～Ⅳを除く中学校教育科目(英語)より16単位以上 発展科目より8単位以上(*2から4単位)含むこと ・ p.87のキャリアデザイン科目 ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目および資格等科目(エクステンション科目) p.100参照 ・ 留学による修得単位 ※① ・ 協定大学での修得単位 ※①

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

2024年度入学生 教育学科専門教育科目群カリキュラム

小学校・中学校教育コース

卒業要件及び免許・資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

選択科目 (42単位以上)

必修科目 (33単位)

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件		免許・資格		備考
			小	中	小	中	
教育原理	2	1	◆	◆	◆	◆	
教職論	2	1	◆	◆	◆	◆	
教育社会学	2	2	◆	◆	◆	◆	
教育心理学	2	1	◆	◆	◆	◆	
特別支援教育入門	1	2	◆	◆	◆	◆	
教育方法・ICT活用論	2	2	◆	◆	◆	◆	
教育相談	2	3	◆	◆	◆	◆	
人権教育	2	3	◆	◆	◆	◆	
教育学基礎演習Ⅰ	2	2	◆	◆	◆	◆	
教育学基礎演習Ⅱ	2	2	◆	◆	◆	◆	
教育学専門演習Ⅰ	2	3	◆	◆	◆	◆	
教育学専門演習Ⅱ	2	3	◆	◆	◆	◆	
教育学専門演習Ⅲ	2	4	◆	◆	◆	◆	
教育学専門演習Ⅳ	2	4	◆	◆	◆	◆	
卒業研究	6	4	◆	◆	◆	◆	注①

- 注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規」(p.148)を参照してください。
 注② 小学校・中学校教育コース、幼児教育・保育コースの者は、特別支援教育科目のうち、他コース履修可能科目を、発展科目として履修することができる。
 注③ 教育実習については、「教育実習に関する内規」(p.111)を参照してください。
 注④ 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習(幼小)教育実習(小幼)を辞退した場合は、履修は認めない。小学校・中学校教育コースの者で、教職課程(数学)履修者は(*1)から4単位を含む8単位以上、教職課程(英語)履修者は(*2)から4単位を含む8単位以上を履修すること。
 注⑤ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目、卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目、各学科提供科目および資格等科目(エクステンション科目) p.100参照、留学による修得単位 ※①、協定大学での修得単位 ※①

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格	備考
教育課程論	2	2	◆	◆	
道徳教育の指導法	2	2	◆	◆	
総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆	◆	
特別活動の指導法	2	3	◆	◆	
生徒・進路指導論	2	3	◆	◆	
国語	2	2	◇	◇	
社会	2	2	◇	◇	
算数	2	2	◇	◇	
理科	2	2	◇	◇	
生活	2	2	◇	◇	
音楽Ⅰ	1	1	◇	◇	
音楽Ⅱ	1	2	◇	◇	「音楽Ⅰ」を修得済であること
図画工作Ⅰ	1	1	◇	◇	
図画工作Ⅱ	1	1	◇	◇	
家庭	2	2	◇	◇	
体育Ⅰ	1	1	◇	◇	
体育Ⅱ	1	2	◇	◇	
外国語(英語)	2	1	◇	◇	
教科教育法・国語	2	3	◆	◆	
教科教育法・社会	2	3	◆	◆	
教科教育法・算数	2	3	◆	◆	
教科教育法・理科	2	3	◆	◆	
教科教育法・生活	2	2	◆	◆	
教科教育法・音楽	2	3	◆	◆	
教科教育法・図画工作	2	2	◆	◆	
教科教育法・家庭	2	2	◆	◆	
教科教育法・体育	2	2	◆	◆	
教科教育法・外国語(英語)	2	2	◆	◆	

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格	備考
代数学Ⅰ	2	1	◆	◆	
代数学Ⅱ	2	2	◆	◆	
代数学Ⅲ	2	3	◇	◇	
幾何学Ⅰ	2	2	◆	◆	
幾何学Ⅱ	2	2	◆	◆	
幾何学Ⅲ	2	3	◇	◇	
解析学Ⅰ	2	1	◆	◆	
解析学Ⅱ	2	2	◆	◆	
解析学Ⅲ	2	3	◇	◇	
確率・統計論Ⅰ	2	3	◆	◆	
確率・統計論Ⅱ	2	3	◇	◇	
コンピュータ概論	2	2	◆	◆	
数学科教育法Ⅰ	2	2	◇	◇	
数学科教育法Ⅱ	2	2	◇	◇	
数学科教育法Ⅲ	2	3	◇	◇	
数学科教育法Ⅳ	2	3	◇	◇	
英語学概論	2	2	◆	◆	
英語の歴史	2	2	◇	◇	
英語の文法	2	1	◆	◆	
英語発音トレーニング	1	1	◇	◇	
English Vocabulary Building	1	1	◇	◇	
英語学概論	2	1	◆	◆	
イギリス・アメリカ文学史	2	2	◇	◇	
英語文学作品研究A	2	3	◇	◇	
英語文学作品研究B	2	3	◇	◇	
英語コミュニケーションⅠ	1	1	◆	◆	
英語コミュニケーションⅡ	1	1	◆	◆	
英語コミュニケーションⅢ	1	2	◆	◆	
英語コミュニケーションⅣ	1	2	◆	◆	
英米文化概論	2	1	◆	◆	
異文化コミュニケーション論	2	3	◇	◇	
英語科教育法Ⅰ	2	2	◇	◇	
英語科教育法Ⅱ	2	2	◇	◇	
英語科教育法Ⅲ	2	3	◇	◇	
英語科教育法Ⅳ	2	3	◇	◇	
教育実習事前事後指導(小幼)	1	3	◆	◆	} 小中コース・ 小プラスコース
教育実習(小幼)	4	3	◆	◆	
教育実習事前事後指導(中)	1	4	◆	◆	} 注③ 内規を満たしたものに限る
教育実習(中)	4	4	◆	◆	
教職実践演習(幼小中)	2	4	◆	◆	} 注④ 対象： 小中コース・ 小プラスコース

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格	備考
子どもと文学	2	2	◆	◆	
子どもと絵本	2	3	◆	◆	
子育てと社会	2	2	◆	◆	
子どもと人権	2	1	◆	◆	
子どもと遊び	2	2	◆	◆	
英語教材研究Ⅰ *2	2	2	◆	◆	
英語教材研究Ⅱ *2	2	3	◆	◆	
英語プレゼンテーション *2	2	3	◆	◆	
日英翻訳ワークショップ *2	1	4	◆	◆	
日英通訳ワークショップ *2	1	3	◆	◆	
児童心理学	2	1	◆	◆	
学習心理学	2	2	◆	◆	
教育評価	2	3	◆	◆	
教育哲学	2	3	◆	◆	
教育制度	2	4	◆	◆	
教育法規	2	3	◆	◆	
防災・安全教育	2	3	◆	◆	
海外教育事情 *2	2	1	◆	◆	
ピアノ実技Ⅰ	1	1	◆	◆	
ピアノ実技Ⅱ	1	2	◆	◆	幼保希望者のみ 「ピアノ実技Ⅰ」修得済が望ましい
ピアノ実技Ⅲ	1	3	◆	◆	
造形表現指導法	1	3	◆	◆	
水泳実習	1	1	◆	◆	集中講義
スキー実習	1	1	◆	◆	集中講義
児童運動指導法	2	4	◆	◆	
基礎数学Ⅰ *1	2	1	◆	◆	
基礎数学Ⅱ *1	2	1	◆	◆	
数学演習Ⅰ *1	1	3	◆	◆	
数学演習Ⅱ *1	1	3	◆	◆	
数学演習Ⅲ *1	1	4	◆	◆	
数学演習Ⅳ *1	1	4	◆	◆	
統計学入門 *1	2	1	◆	◆	
代数学応用 *1	2	4	◆	◆	
幾何学応用 *1	2	4	◆	◆	
解析学応用 *1	2	4	◆	◆	
小学校観察実習	1	2	◆	◆	
幼稚園観察実習	1	2	◆	◆	
学校園体験活動Ⅰ	1	2	◆	◆	
学校園体験活動Ⅱ	1	3	◆	◆	「学校園体験活動Ⅰ」を 修得済であること
学級経営入門	2	4	◆	◆	
模擬授業演習	2	4	◆	◆	
教育とメディア	2	2	◆	◆	
理科観察・実験	2	4	◆	◆	
小中一貫教育(算数・数学) *1	2	4	◆	◆	
小中一貫教育(外国語活動・外国語) *2	2	4	◆	◆	
海外芸術・教育研修	3	1	◆	◆	集中講義
海外教育実地研究 *2	3	1	◆	◆	集中講義、実習と重複 している場合は、履修 できないことがある。
米国教育研修 *2	3	3	◆	◆	
特別支援教育基礎理論	2	1	◆	◆	注② 小 プラスコース 基幹科目
知的障害児教育論	2	2	◆	◆	(小中コースでは、 発展科目として履 修・単位修得する ことができる。)
肢体不自由児教育論	2	1	◆	◆	
発達障害児教育Ⅰ	2	3	◆	◆	
発達障害児教育Ⅱ	2	4	◆	◆	

● 教育学科専門教育科目群の履修について

②小学校教育プラスコース：小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状または特別支援学校教諭一種免許状の取得を目指します。
 <小学校・中学校教育コースは p.92、幼児教育・保育コースは p.96を参照してください。>

卒業要件

群	卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目 10単位	p.86参照
	選択科目 10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目 33単位	基本科目15単位 演習科目18単位
	選択科目 45単位	26単位 基幹科目内の小学校教育科目より18単位以上、発展科目より8単位以上含むこと ・ p.87のキャリアデザイン科目 ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目および資格等科目(エクステンション科目) p.100参照 ・ 留学による修得単位 ※① ・ 協定大学での修得単位 ※①

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

2024年度入学生 教育学科専門教育科目群カリキュラム

小学校教育プラスコース

選択科目 (26単位以上)

卒業要件及び免許・資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

必修科目 (33単位)

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格			備考
				小 免	特 支 援	幼 免	
教育原理	2	1	◆	◆	◆		
教職論	2	1	◆	◆	◆		
教育社会学	2	2	◆	◆	◆		
教育心理学	2	1	◆	◆	◆		
特別支援教育入門	1	2	◆	◆	◆		
教育方法・ICT活用論	2	2	◆	◆	◆		
教育相談	2	3	◆	◆	◆		
人権教育	2	3	◆	◆	◆		
教育学基礎演習Ⅰ	2	2	◆				
教育学基礎演習Ⅱ	2	2	◆				
教育学専門演習Ⅰ	2	3	◆				
教育学専門演習Ⅱ	2	3	◆				
教育学専門演習Ⅲ	2	4	◆				
教育学専門演習Ⅳ	2	4	◆				
卒業研究	6	4	◆			注①	

注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規」(p.148)を参照してください。
 注② 教育実習については、「教育実習に関する内規」(p.111)を参照してください。
 注③ 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習(幼小)教育実習(小幼)を辞退した場合は、履修は認めない。

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格			備考
				小 免	特 支 援	幼 免	
教育課程論	2	2	◆				
道徳教育の指導法	2	2	◆				
総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆				
特別活動の指導法	2	3	◆				
生徒・進路指導論	2	3	◆				
国語	2	2	◇				
社会	2	2	◇				
算数	2	2	◇				
理科	2	2	◇				
生活	2	2	◇				
音楽Ⅰ	1	1	◇				
音楽Ⅱ	1	2	◇			「音楽Ⅰ」を修得済であること	
図画工作Ⅰ	1	1	◇				
図画工作Ⅱ	1	1	◇				
家庭	2	2	◇				
体育Ⅰ	1	1	◇				
体育Ⅱ	1	2	◇				
外国語(英語)	2	1	◇				
教科教育法・国語	2	3	◆				
教科教育法・社会	2	3	◆				
教科教育法・算数	2	3	◆				
教科教育法・理科	2	3	◆				
教科教育法・生活	2	2	◆				
教科教育法・音楽	2	3	◆				
教科教育法・図画工作	2	2	◆				
教科教育法・家庭	2	2	◆				
教科教育法・体育	2	2	◆				
教科教育法・外国語(英語)	2	2	◆				

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格			備考
				小 免	特 支 援	幼 免	
特別支援教育基礎理論	2	1	◇	◆			
知的障害児の心理	2	2	◇	◆			
知的障害児の生理・病理	2	2	◇	◆			
肢体不自由児の心理・生理・病理	2	2	◇	◆			
病弱児の心理・生理・病理	2	3	◇	◆		特支教育実習履修者に限る	
知的障害児教育論	2	2	◇	◆			
知的障害児教育指導法	2	2	◇	◆			
肢体不自由児教育論	2	1	◇	◆			
病弱児教育論	2	3	◇	◆		特支教育実習履修者に限る	
視覚障害児の心理・生理・病理	1	4	◇	◆		特支教育実習履修者に限る 「視覚障害児教育指導法」を同時に履修すること	
聴覚障害児の心理・生理・病理	1	2	◇	◆		「聴覚障害児教育指導法」を同時に履修すること	
視覚障害児教育指導法	1	4	◇	◆		特支教育実習履修者に限る 「視覚障害児の心理・生理・病理」を同時に履修すること	
聴覚障害児教育指導法	1	2	◇	◆		「聴覚障害児の心理・生理・病理」を同時に履修すること	
発達障害児教育Ⅰ	2	3	◇	◆			
発達障害児教育Ⅱ	2	4	◇	◇			
幼児教育課程論	2	3	◇	◆			
子ども理解	1	3	◇	◆			
子どもと健康	2	1	◇	◆			
子どもと人間関係	2	2	◇	◆			
子どもと環境	2	2	◇	◆			
子どもと言葉	2	1	◇	◆			
子どもと音楽表現Ⅰ	1	1	◇	◆			
子どもと音楽表現Ⅱ	1	2	◇	◆			
子どもと造形表現Ⅰ	1	1	◇	◆			
子どもと造形表現Ⅱ	1	1	◇	◆			
子どもと身体表現Ⅰ	1	1	◇	◆			
子どもと身体表現Ⅱ	1	2	◇	◆			
保育内容(総論)	2	1	◇	◆			
保育内容(健康)	2	2	◇	◆			
保育内容(人間関係)	2	2	◇	◆			
保育内容(環境)	2	2	◇	◆			
保育内容(言葉)	2	2	◇	◆			
保育内容(表現)	2	2	◇	◆			
教育実習事前事後指導(小幼)	1	3	◇	◆		注② 内規を満たした者に限る	
教育実習(小幼)	4	3	◇	◆		注③ 対象：小中コース・小プラスコース	
教育実習事前事後指導(特)	1	4	◇	◆			
教育実習(特)	2	4	◇	◆			
教職実践演習(幼小中)	2	4	◇	◆		注④ 対象：小中コース・小プラスコース	

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格			備考
				小 免	特 支 援	幼 免	
子どもと文学	2	2					
子どもと絵本	2	3					
子育てと社会	2	2					
子どもと人権	2	1					
子どもと遊び	2	2					
英語教材研究Ⅰ	2	2					
英語教材研究Ⅱ	2	3					
英語プレゼンテーション	2	3					
日英翻訳ワークショップ	1	4					
日英通訳ワークショップ	1	3					
児童心理学	2	1					
学習心理学	2	2					
教育評価	2	3					
教育哲学	2	3					
教育制度	2	4					
教育法規	2	3					
防災・安全教育	2	3					
海外教育事情	2	1					
ピアノ実技Ⅰ	1	1				幼保希望者のみ	
ピアノ実技Ⅱ	1	2				幼保希望者のみ 「ピアノ実技Ⅰ」修得済が望ましい	
ピアノ実技Ⅲ	1	3					
造形表現指導法	1	3					
水泳実習	1	1				集中講義	
スキー実習	1	1				集中講義	
児童運動指導法	2	4					
基礎数学Ⅰ	2	1					
基礎数学Ⅱ	2	1					
数学演習Ⅰ	1	3					
数学演習Ⅱ	1	3					
数学演習Ⅲ	1	4					
数学演習Ⅳ	1	4					
統計学入門	2	1					
代数学応用	2	4					
幾何学応用	2	4					
解析学応用	2	4					
小学校観察実習	1	2					
幼稚園観察実習	1	2					
学校園体験活動Ⅰ	1	2					
学校園体験活動Ⅱ	1	3				「学校園体験活動Ⅰ」を修得済であること	
学級経営入門	2	4					
模擬授業演習	2	4					
教育とメディア	2	2					
理科観察・実験	2	4					
小中一貫教育(算数・数学)	2	4					
小中一貫教育(外国語活動・外国語)	2	4					
海外芸術・教育研修	3	1				集中講義	
海外教育実地研究	3	1				集中講義、実習と重複している場合は、履修できないことがある。	
米国教育研修	3	3					

● 教育学科専門教育科目群の履修について

③幼児教育・保育コース：幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得を目指し、認定こども園で求められる保育教諭を養成します。

<小学校・中学校教育コースはp.92、小学校教育プラスコースはp.94を参照してください。>

卒業要件

群	卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目 10単位	p.86参照
	選択科目 10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目 33単位	基本科目15単位 演習科目18単位
	選択科目 45単位	26単位 基幹科目内の幼児教育科目より18単位以上、発展科目より8単位以上含むこと ・p.87のキャリアデザイン科目 ・卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・各学科提供科目および資格等科目(エクステンション科目) p.100参照 ・留学による修得単位 ※① ・協定大学での修得単位 ※①

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

2024年度入学生 教育学科専門教育科目群カリキュラム

幼児教育・保育コース

卒業要件及び免許・資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

必修科目 (33単位)

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件			免許・資格	備考
			卒業要件	幼児保育コース	幼保		
教育原理	2	1	◆	◆	◆		
教職論	2	1	◆	◆			
教育社会学	2	2	◆	◆			
教育心理学	2	1	◆	◆	◆		
特別支援教育入門	1	2	◆	◆			
教育方法・ICT活用論	2	2	◆	◆			
教育相談	2	3	◆	◆			
人権教育	2	3	◆	◆			
教育学基礎演習Ⅰ	2	2	◆				
教育学基礎演習Ⅱ	2	2	◆				
教育学専門演習Ⅰ	2	3	◆				
教育学専門演習Ⅱ	2	3	◆				
教育学専門演習Ⅲ	2	4	◆				
教育学専門演習Ⅳ	2	4	◆				
卒業研究	6	4	◆			注①	

- 注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規 (p.148) を参照してください。
- 注② 小学校・中学校教育コース、幼児教育・保育コースの者は、特別支援教育科目のうち、他コース履修可能科目を、発展科目として履修することができる。
- 注③ 教育実習については、「教育実習に関する内規 (p.111) を参照してください。
- 注④ 保育実習については、「教育学部保育士課程科目の履修に関する内規 (p.115) を参照してください。
- 注⑤ 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習(幼小)を辞退した場合は、履修は認めない。

選択科目 (26単位以上)

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件		免許・資格	備考
			卒業要件	幼児保育コース		
幼児教育課程論	2	3	◆	◆		
子ども理解	1	3	◆	◇		
子どもと健康	2	1	◆	◇		
子どもと人間関係	2	2	◆	◇		
子どもと環境	2	2	◆	◇		
子どもと言葉	2	1	◆	◇		
子どもと音楽表現Ⅰ	1	1	◆	◆		
子どもと音楽表現Ⅱ	1	2	◆	◆		
子どもと造形表現Ⅰ	1	1	◆	◆		
子どもと造形表現Ⅱ	1	1	◆	◇		
子どもと身体表現Ⅰ	1	1	◆	◆		
子どもと身体表現Ⅱ	1	2	◆	◇		
保育内容(総論)	2	1	◆	◆		
保育内容(健康)	2	2	◆	◆		
保育内容(人間関係)	2	2	◆	◆		
保育内容(環境)	2	2	◆	◆		
保育内容(言葉)	2	2	◆	◆		
保育内容(表現)	2	2	◆	◆		

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格	備考
保育原理	2	1	◇	◆	
子ども家庭福祉	2	2	◇	◆	
社会福祉論	2	3	◇	◆	
子ども家庭支援論	2	3	◇	◆	
社会的養護Ⅰ	2	1	◇	◆	
社会的養護Ⅱ	1	2	◇	◆	保育士履修者に限る
保育者論	2	1	◇	◆	
子ども家庭支援の心理学	2	3	◇	◆	
子どもの理解と援助	1	1	◇	◆	保育士履修者に限る
子どもの保健	2	3	◇	◆	
子どもの食と栄養	2	3	◇	◆	保育士履修者に限る
乳児保育論	2	2	◇	◆	
乳児保育演習	1	2	◇	◆	保育士履修者に限る
子どもの健康と安全	1	3	◇	◆	保育士履修者に限る
障害児保育Ⅰ	2	3	◇	◆	保育士履修者に限る
障害児保育Ⅱ	2	3	◇	◇	
子育て支援	1	4	◇	◆	保育士履修者に限る
保育学入門	2	1	◇	◇	
教育実習事前事後指導(幼小)	1	4	◇	◆	注③ 幼保コース
教育実習(幼小)	4	4	◇	◆	
保育実習指導ⅠA(保育所・施設)	1	1	◇	◆	
保育実習指導ⅠB(保育所・施設)	1	2	◇	◆	
教育とメディア	2	2	◇	◆	
保育実習Ⅰ(保育所・施設)	4	2	◇	◆	
保育実習指導Ⅱ(保育所)	1	3	◇	◇	注④ 内規を満たした者に限る(人数制限あり)
保育実習Ⅱ(保育所)	2	3	◇	◇	
保育実習指導Ⅲ(施設)	1	3	◇	◇	
保育実習Ⅲ(施設)	2	3	◇	◇	
保育・教職実践演習(幼)	2	4	◇	◆	注⑤ 対象：幼保コース

授業科目名	単位数	配当年次	卒業要件	免許・資格	備考
子どもと文学	2	2	◇		
子どもと絵本	2	3	◇		
子育てと社会	2	2	◇	◇	
子どもと人権	2	1	◇	◇	
子どもと遊び	2	2	◇		
英語教材研究Ⅰ	2	2	◇		
英語教材研究Ⅱ	2	3	◇		
英語プレゼンテーション	2	3	◇		
日英翻訳ワークショップ	1	4	◇		
日英通訳ワークショップ	1	3	◇		
児童心理学	2	1	◇		
学習心理学	2	2	◇		
教育評価	2	3	◇		
教育哲学	2	3	◇		
教育制度	2	4	◇		
教育法規	2	3	◇		
防災・安全教育	2	3	◇		
海外教育事情	2	1	◇		
ピアノ/実技Ⅰ	1	1	◇		幼保希望者のみ
ピアノ/実技Ⅱ	1	2	◇		幼保希望者のみ 「ピアノ/実技Ⅰ」 修得済が望ましい
ピアノ/実技Ⅲ	1	3	◇		
造形表現指導法	1	3	◇		
水泳実習	1	1	◇		集中講義
スキー実習	1	1	◇		集中講義
児童運動指導法	2	4	◇		8単位以上
基礎数学Ⅰ	2	1	◇		
基礎数学Ⅱ	2	1	◇		
数学演習Ⅰ	1	3	◇		
数学演習Ⅱ	1	3	◇		
数学演習Ⅲ	1	4	◇		
数学演習Ⅳ	1	4	◇		
統計学入門	2	1	◇		
代数学応用	2	4	◇		
幾何学応用	2	4	◇		
解析学応用	2	4	◇		
小学校観察実習	1	2	◇		
幼稚園観察実習	1	2	◇		
学校園体験活動Ⅰ	1	2	◇		
学校園体験活動Ⅱ	1	3	◇		「学校園体験活動Ⅰ」 を修得済であること
学級経営入門	2	4	◇		
模擬授業演習	2	4	◇		
教育とメディア	2	2	◇		
理科観察・実験	2	4	◇		
小中一貫教育(算数・数学)	2	4	◇		
小中一貫教育(外国語活動・外国語)	2	4	◇		
海外芸術・教育研修	3	1	◇		集中講義
海外教育実地研究	3	1	◇		集中講義、実習と 重複している場合は、 履修できない ことがある。
米国教育研修	3	3	◇		
特別支援教育基礎理論	2	1	◇		注⑥
知的障害児教育論	2	2	◇		小プラスコース 基幹科目
肢体不自由児教育論	2	1	◇		(幼保コースでは、 発展科目として履 修・単位修得する ことができる。)
発達障害児教育Ⅰ	2	3	◇		
発達障害児教育Ⅱ	2	4	◇		

● スポーツ教育学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群		卒業要件単位	備考
共通教育科目	必修科目	10単位	p.86参照
	選択科目	10単位	p.87参照
専門教育科目	必修科目	32単位	基本科目14単位 演習科目18単位
	選択科目	24単位以上	基幹科目及び発展科目から24単位以上修得すること
免許資格科目・その他科目	選択科目	48単位以上	・ p.87のキャリアデザイン科目 ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目 } エクステンション科目 p.100参照 ・ 資格等科目 ・ 本学通信教育部での修得単位 ・ 留学による修得単位※① ・ 協定大学での修得単位※①
	計	124単位	

※①認定限度単位数については、「単位認定取扱要領」(p.149)を参照してください。

コース説明

- ①学校体育・スポーツ教育コース：体育授業づくりとスポーツコーチングについて学びます。
- ②スポーツ心理・健康福祉コース：スポーツ時のこころ、身体、人々の健康づくりについて学びます。
- ③生涯スポーツ・マネジメントコース：地域の活性化と長寿社会を支える生涯スポーツ環境づくりに取り組みます。

2024年度入学生 スポーツ教育学科専門教育科目群カリキュラム

必修科目 (32単位)

	授業科目名	単位		配当年次	(教保体)免	アシスタント	ジュニア	マニージャ	バラスポーツ		実践指導者	健康運動者	備考
		必修	選択						初級	中級			
基本科目 (14単位)	スポーツ教育学総論	2		1		◆	◆	◆					
	スポーツ統計学	2		3									
	教育学概論	2		1									
	スポーツ原理	2		1	◆								
	スポーツ政策論	2		2									
	ジュニアスポーツ指導者論	2		3		◆	◆	◆	◆	◆			
	運動発達心理学	2		3									
演習科目 (18単位)	スポーツ教育学基礎演習Ⅰ	2		2									
	スポーツ教育学基礎演習Ⅱ	2		2									
	スポーツ教育学専門演習Ⅰ	2		3									
	スポーツ教育学専門演習Ⅱ	2		3									
	スポーツ教育学専門演習Ⅲ	2		4									
	スポーツ教育学専門演習Ⅳ	2		4									
	卒業研究	6		4									注①

選択科目 (24単位以上)

	授業科目名	単位		配当年次	(教保体)免	アシスタント	ジュニア	マニージャ	バラスポーツ		実践指導者	健康運動者	備考
		必修	選択						初級	中級			
基幹科目	スポーツ教育・コース	コーチング論	2	4		◆	◆	◆					
		保健体育科教育法Ⅰ	2	2	◆								
		保健体育科教育法Ⅱ	2	2	◆								
		学校保健	2	3	◆								
		学校体育経営論	2	2	◇								
	健康福祉コース	スポーツカウンセリング総論	2	2			◆	◆	◆	◆	◆		
		メンタルトレーニング	2	3									
		ソーシャルサポート	2	2									
		障がい者スポーツ総論	2	2		◆	◆	◆	◆	◆			
		地域スポーツ経営論	2	3				◆					
マネジメントコース	生涯スポーツ学習論	2	1										
	スポーツマネジメント総論	2	2		◆	◆	◆						
	スポーツ社会学	2	1	◇					◆	◆			
	ジュニアスポーツ実践	2	2				◆						
	健康運動実践	2	1								◆		
	解剖生理学	2	2	◇									
	スポーツ生理学	2	2	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆			
	体力測定評価	2	2				◆					◆	
	スポーツ医学	2	3		◆	◆	◆	◆	◆	◆			
	障がい者スポーツ演習	2	4						◆	◆			
発展科目	安全救急法	2	3	◆	◆	◆	◆			◆			
	スポーツ運動学	2	3	◆									
	トレーニング論	2	2		◆	◆	◆						
	スポーツ栄養学	2	2		◆	◆	◆					◆	
	公衆衛生学	2	2	◆									
	スポーツ心理学	2	2	◇	◆	◆	◆	◆	◆	◆			
	スポーツバイオメカニクス	2	2	◇	◆	◆	◆					◆	
	教材・教具の研究	2	3										
	エアロビックダンス	1	3									◆	
	体ほぐし	1	3	◆									
	ダンス	1	1	◆									
	器械運動	1	1	◆									
	陸上運動	1	1	◆							◆	◆	
	バレーボール	1	2	◇							◇		
バドミントン	1	3	◇										
ソフトボール	1	3	◇							◇	注②(人数制限あり)		
バスケットボール	1	2	◇							◇			
サッカー	1	3	◇										
ラグビー	1	2	◇										
武道	1	3	◆										
水泳	1	1	◆							◆	◆		
遠泳	1	1										集中講義「水泳」履修者に限る	
スキー	2	1										集中講義	
スポーツ文化事情	2	1										集中講義	
海外スポーツ教育・文化研修	2	2										集中講義	

注① 卒業研究については、「卒業論文・卒業研究に関する内規」(p.148)を参照してください。

注② 30名を超えた場合は抽選とし、資格希望者を優先とします。

● エクステンション科目群

この科目群は、学生の皆さんに学科の専門の枠を越えて幅広い教養、専門知識を系統立てて身につけていただくために設けたものです。したがって、各自で学修の目標を立て、その目標に則した科目を履修するよう心掛けてください。

なお、エクステンション科目（共通教育科目及び自学科専門教育科目を除く）群の履修は自由選択ですので、自学科の専門科目のみで専門教育科目群の単位を満たすことも可能です。

免許・資格科目		エクステンション科目として履修可能学科			
		国際	心理	教育	スポーツ教育
教職課程科目		○ (国語科目のみ)		○ 中学・英語科目希望者(国際文化学科科目「比較文化論」のみ)	○ (保健体育科目のみ)
司書教諭課程科目		○		○	○
司書課程科目		○	○	○	○
日本語教員資格関係科目		○	○	○	○
上級情報処理士			○		
認定心理士科目			○ (教育学科科目：「学習心理学」のみ)		
授業科目名		提供学科			
注①	エアライン演習	国際		○	○
	海外芸術・教育研修	教育	○	○	○
	海外教育実地研究		○	○	○
	米国教育研修 注③		○	○	○
	海外心理学研修	心理	○		○
	海外スポーツ教育・文化研修	スポーツ教育	○	○	○
水泳実習	教育	○	○		
スキー実習		○	○		
海外教育事情		○	○	○	
防災・安全教育		○	○	○	
自然環境と心理	心理	○		○	
学校園体験活動Ⅰ	教育	○	○	○	
学校園体験活動Ⅱ 注②		○	○	○	

注① 実習と重複している場合等は、履修できないことがある。

注② 「学校園体験活動Ⅰ」を修得済であること。

注③ 本年度不開講

● 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

これからの社会に必要な情報活用能力を修得できるよう、本学では共通教育科目群に「情報リテラシー科目」を用意しています。その中でも、データ思考を身に付け、問題解決できる人材を育成するため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を用意しました。

このプログラムでは、数理・データサイエンス・AIに関する知識と技術を体系的*に学び、活用する基礎的な能力を修得できるよう設けられています。

下表の4単位を修得すると、卒業時に本学独自のプログラム修了証書が授与されます。

*）文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の体系を参考に組み立てています。

区分	科目名	単位	配当年次	提供元
心得	ICT基礎Ⅰ	1	1	共通教育（バイシク・スキル）
	導入	2	1	共通教育（リベラルアーツ／情報リテラシー）
基礎	AIとデータサイエンス			
	ICT基礎Ⅱ	1	1	共通教育（バイシク・スキル）

● 教職課程

本学は、文部科学省から認可を受け、教員免許状を取得するための教職課程を設けています。
教員になる場合は、いずれの雇用形態〔正規の教員・臨時的任用教員（時間講師・常勤講師など）〕でも、教員免許状を所有していることが絶対条件となります。

教職課程の科目を修得することによって、本学卒業時に教員免許状が取得できます。教職課程の各科目は、教育職員免許法、学校教育法等各種の法令、文部科学省及び各教育委員会からの通達等により細かく規定されている法定科目です。そのため、履修に際しては、出席・成績等についても厳格な条件が設けられています。

特に、教育実習については、定められた科目を修得済みでなければ履修できないので履修計画には十分留意してください。（教育実習については、必ず「教育実習に関する内規」(p.111)を参照しておくこと。）

教育実習は、各教育委員会、実習校の規定や指導のもとに行われるもので、一人一人の強い意欲と真摯な学習態度、几帳面さ等が求められます。下記の流れに沿って説明会や事前事後指導が行われますので、必ず出席してください。なお、教育実習及び介護等体験に関する連絡は、各Teamsや *Shinwa Smile.net* 等で行われますので、注意してください。また、わからないことがあれば、独り合点をせず、必ず早めに教職課程・実習支援センターで確認してください。

実習等の流れ

	教育学科				国際文化学科 スポーツ教育学科
	幼保	小のみ/小幼	小特	小中(数学)(英語)	中高(国語)(保健体育)
1年	保育士課程履修説明会 保育実習事前指導ⅠA		教育実習(特)実習説明会 (4月・11月・3月)		
2年	保育実習事前指導ⅠB 保育実習Ⅰ (9月・10～11月)	教育実習(小幼)依頼説明会(4月)			
		教育実習(小幼)依頼			
		介護等体験申込説明会(11月)			
			教育実習(特)依頼説明会 (3月)		
3年	保育実習事前指導Ⅱ・Ⅲ	教育実習(小幼)事前指導(4～8月)			
	教育実習(小幼)依頼説明会(5月)		教育実習(特)依頼	教育実習(中)依頼説明会 (4月)	教育実習Ⅰ・Ⅱ依頼説明会 (4月)
				教育実習(中)依頼	教育実習Ⅰ・Ⅱ依頼
	教育実習(小幼)依頼	介護等体験事前指導(4月)			
	保育実習Ⅱ・Ⅲ(8～9月)	介護等体験(5～11月)福祉施設に5日間・特別支援学校に2日間			
	教育実習(小幼)(9～11月)小学校に4週間				
4年	教育実習(小幼)事前指導 (3～5月)		教育実習(特)事前指導	教育実習(中)事前指導	教育実習事前指導
	教育実習(小幼) (5～7月) 幼稚園に4週間		教育実習(特) (5～7月または9～ 12月)特別支援学校に 2週間	教育実習(中) (5～7月または9～11月) 中学校に3週間	教育実習Ⅰ・Ⅱ (5～7月または9～11月) 中学校もしくは高校に3週間 高校のみ取得者2週間

※保育実習についてはp.114参照。

※各実習等に関する連絡は各Teamsや *Shinwa Smile.net* 等で行われますので、各自で確認してください。

①免許取得のための基礎資格と最低単位数（教育職員免許法）

教育職員免許法・同施行規則には、免許状取得のための所要条件として基礎資格（大学卒業）と最低修得単位数（法規上単位数）が定められています。

免許の種類	所要資格	基礎資格	法定最低単位数				
			(イ) 教科及び教科の指導法に関する科目 領域及び保育内容の指導法に関する科目	(ウ) 教育の基礎的理解に関する科目	(エ) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	(オ) 教育実践に関する科目	(カ) 大学が独自に設定する科目
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること		16	10	4	7	14
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること		30	10	10	7	2
中学校教諭一種免許状 (国語・数学・英語・保健体育)	学士の学位を有すること		28	10	10	7	4
高等学校教諭一種免許状 (国語・保健体育)	学士の学位を有すること		24	10	8	5	12

②教職課程の履修について

教員免許状を取得するためには次の科目が必要です。各教科とも、免許法上の最低修得単位を基準として、本学で定められた科目、単位を修得しなければなりません。また、小・中学校の教員免許状取得の場合は、「介護等の体験」が必要となります。

- | | |
|--|---|
| (ア) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 | (イ) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |
| (イ) 教科及び教科の指導法に関する科目
領域及び保育内容の指導法に関する科目 | (オ) 教育実践に関する科目 |
| (ウ) 教育の基礎的理解に関する科目 | (カ) 大学が独自に設定する科目 |
| | (キ) 介護等の体験
小・中学校の免許状を取得しようとする者は、「介護等の体験」7日間（社会福祉施設等5日間、特別支援学校2日間）が必修となります。 |

③国際文化学科 教職課程<高等学校・中学校教諭一種免許状(国語)>

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考
		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 シラバス 選択	配当年次	高	中	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	1	◆	◆	共通教育科目
体育	2	基礎体育学 健康行動学	2	1	1	◆	◆	共通教育科目 共通教育科目
外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	2	1	1	◆	◆	共通教育科目 共通教育科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	AIとデータサイエンス ICT基礎Ⅰ ICT基礎Ⅱ	2	1	1	◆	◆	2単位以上 共通教育科目 共通教育科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 シラバス 選択	配当年次	高	中	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) 国文学(国文学史を含む。) 漢文学 書道(書写を中心とする。)	日本語概論	2	2	◆	◆	16単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる	20	◆
		日本語表現法	2	2	◆	◆			
		文章の技術	2	2	◆	◆			
		話し方の技術	2	2	◆	◆			
		日本語文法(古典)	2	2	◆	◆			
		日本語文法(現代)	2	2	◆	◆			
		日本語音声学	2	2	◆	◆			
		日本語史	2	2	◆	◆			
		日本文学概論	2	2	◆	◆			
		日本文学史	2	2	◆	◆			
日本文学講読(古典)	2	2	◆	◆					
日本文学講読(現代)	2	2	◆	◆					
日本文学講義	2	2	◆	◆					
漢文学概論	2	2	◆	◆					
漢文学講読	2	2	◆	◆					
書道	1	2	◆	◆	◆	◆	◆	◆	中一種のみ必修
書道史	2	2	◆	◆	◆	◆	◆	◆	中一種のみ選択
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	-	-	-	-	-	-	-	-	-
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ	2 2 2 2	2 2 3 3	◆ ◆ ◆ ◆	2 2 3 3	◆ ◆ ◆ ◆	8	8	◆ ◆ ◆ ◆
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育原理(中等)	2	2	◆	◆	11	11	◆
		教職論(中等)	2	1	◆	◆			
		教育社会学(中等)	2	2	◆	◆			
		教育心理学(中等)	2	2	◆	◆			
		特別支援教育入門(中等)	1	2	◆	◆			
		教育課程論(中等)	2	2	◆	◆			
		道徳教育の指導法(中等)	2	2	◆	◆			
道徳教育の指導法に関する科目	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 総合的な探求の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	道徳教育の指導法(中等)	2	2	◆	◆	9	11	◆
		総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆	◆			
		特別活動の指導法(中等)	2	2	◆	◆			
		教育方法・ICT活用論(中等)	2	2	◆	◆			
		生徒・進路指導論(中等)	2	2	◆	◆			
		教育相談(中等)	2	3	◆	◆			
		教育実習事前事後指導(中等)	1	4	◆	◆			
科目に関する実践	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	教育実習Ⅰ(中等)	2	4	◆	◆	5	5	◆
		教育実習Ⅱ(中等)	2	4	◆	◆			
		教職実践演習(中・高)	2	4	◆	◆			
科目に大目設定がする	人権教育 道徳教育の指導法(中等) 免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した、他の区分の科目	人権教育	2	2	◆	◆	★12	★4	◆
		道徳教育の指導法(中等)	2	3	◆	◆			

◇中学校の教員免許を取得しようとするものは「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)	3	◆	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	---	---	--------------------

- 法① 実習内規を満たした者に限る。
法② 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ(中等)を辞退した場合は、履修は認めない。

④教育学科 教職課程<中学校教諭一種免許状(数学)>

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考
		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 シラバス 選択	配当年次	中		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	1	◆	◆	共通教育科目
体育	2	基礎体育学 健康行動学	2	1	1	◆	◆	共通教育科目 共通教育科目
外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	2	1	1	◆	◆	共通教育科目 共通教育科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	AIとデータサイエンス ICT基礎Ⅰ ICT基礎Ⅱ	2	1	1	◆	◆	2単位以上 共通教育科目 共通教育科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 シラバス 選択	配当年次	高	中	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 代数学 幾何学 解析学 「確率論、統計学」 コンピュータ 教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	代数学Ⅰ	2	1	◆	◆	20	20	◆
		代数学Ⅱ	2	2	◆	◆			
		代数学Ⅲ	2	2	◆	◆			
		幾何学Ⅰ	2	2	◆	◆			
		幾何学Ⅱ	2	2	◆	◆			
		幾何学Ⅲ	2	2	◆	◆			
		解析学Ⅰ	2	1	◆	◆			
		解析学Ⅱ	2	2	◆	◆			
		解析学Ⅲ	2	2	◆	◆			
		確率・統計論Ⅰ	2	3	◆	◆			
確率・統計論Ⅱ	2	3	◆	◆					
コンピュータ概論	2	2	◆	◆					
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法Ⅰ 数学科教育法Ⅱ 数学科教育法Ⅲ 数学科教育法Ⅳ	2 2 2 2	2 2 3 3	◆ ◆ ◆ ◆	2 2 3 3	◆ ◆ ◆ ◆	8	8	◆ ◆ ◆ ◆
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育原理	2	1	◆	◆	11	11	◆
		教職論	2	1	◆	◆			
		教育社会学	2	2	◆	◆			
		教育心理学	2	1	◆	◆			
		特別支援教育入門	1	2	◆	◆			
		教育課程論	2	2	◆	◆			
		道徳教育の指導法	2	2	◆	◆			
道徳教育の指導法に関する科目	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 総合的な探求の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	道徳教育の指導法	2	2	◆	◆	11	11	◆
		総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆	◆			
		特別活動の指導法(中等)	2	2	◆	◆			
		教育方法・ICT活用論	2	2	◆	◆			
		生徒指導の理論及び方法	2	2	◆	◆			
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2	3	◆	◆			
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	2	3	◆	◆			
科目に関する実践	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	教育実習事前事後指導(中)	1	4	◆	◆	5	5	◆
		教育実習(中)	4	4	◆	◆			
		教職実践演習(幼小中)	2	4	◆	◆			
科目に大目設定がする	人権教育 免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した、他の区分の科目	人権教育	2	2	◆	◆	★4	★4	◆
		免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した、他の区分の科目	2	3	◆	◆			

◇中学校の教員免許を取得しようとするものは「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)	3	◆	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	---	---	--------------------

- 法① 実習内規を満たした者に限る。
法② 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習(中)を辞退した場合は、履修は認めない。

⑤教育学科 教職課程<中学校教諭一種免許状(英語)>

◆英語の教員免許状を取得しようとする学生は、実習前年度までに英検2級又はTOEIC550点の取得を目指す

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目			配当年次	中	備考
		授業科目名	必修	選択			
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	◆	9	共通教育科目
体育	2	基礎体育学	1	1	◆		共通教育科目
		健康行動学	2	1	◆		共通教育科目
		総合英語Ⅰ	1	1	◆		共通教育科目
外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅱ	1	1	◆		共通教育科目
		AIとデータサイエンス	2	1	◇		共通教育科目
		ICT基礎Ⅰ	1	1	◇		共通教育科目
		ICT基礎Ⅱ	1	1	◇		共通教育科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2						2単位以上

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学で定められた授業科目			配当年次	中	備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目名	必修				選択
教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目	教科に含めることが必要な事項	28	英語学	英語学概論	2	2	20	
				英語の歴史	2	2		
				英語の文法	2	1		
				英語発音トレーニング	1	1		
				English Vocabulary Building	1	1		
			英語文学	英語文学概論	2	1		
				イギリス・アメリカ文学史	2	2		
			英語コミュニケーション	英語文学作品研究A	2	3		
				英語文学作品研究B	2	3		
				英語コミュニケーションⅠ	1	1		
				英語コミュニケーションⅡ	1	1		
			異文化理解	英語コミュニケーションⅢ	1	2		
				英語コミュニケーションⅣ	1	2		
比較文化論	2	3						
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—						(国際文化学教科目)	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	—					8		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	教育原理	2	1	◆	11	(幼小中共通開設)
			教職論	2	1	◆		(幼小中共通開設)
			教育社会学	2	2	◆		10単位を超えて修得した単位は
			教育心理学	2	1	◆		★の単位にすることが
			特別支援教育入門	1	2	◆		できる
			教育課程論	2	2	◆		(小中共通開設)
			道徳の理論及び指導法	2	2	◆		(小中共通開設)
			総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆		(小中共通開設)
			特別活動の指導法	2	3	◆		(小中共通開設)
			教育の方法及び技術	2	2	◆		10単位を超えて修得した単位は
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	2	2	◆	★の単位にすることが				
生徒指導の理論及び方法	2	3	◆	できる				
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2	3	◆	(幼小中共通開設)				
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	2	3	◆	(幼小中共通開設)				
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(中)	1	4	◆	5	注①
			教育実習(中)	4	4	◆		
			—					
自ら学ぶが前提	学校体験活動 教職実践演習	2	—	2	4	◆	2	注②(幼小中共通開設)
			人権教育	2	3	◆	★4	

◇中学校の教員免許を取得しようとするものは「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)			3	◆	7日間(2年次の11月に説明会を予定)
-------------	--	--	---	---	---------------------

注① 実習内規を満たした者に限る。

注② 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習(中)を辞退した場合は、履修は認めない。

⑥教育学科 教職課程<小学校教諭一種免許状>

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目			配当年次	中	備考
		授業科目名	必修	選択			
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	◆	9	共通教育科目
体育	2	基礎体育学	1	1	◆		共通教育科目
		健康行動学	2	1	◆		共通教育科目
		総合英語Ⅰ	1	1	◆		共通教育科目
外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅱ	1	1	◆		共通教育科目
		AIとデータサイエンス	2	1	◇		共通教育科目
		ICT基礎Ⅰ	1	1	◇		共通教育科目
		ICT基礎Ⅱ	1	1	◇		共通教育科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2						2単位以上

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学で定められた授業科目			配当年次	中	備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目名	必修				選択
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に含めることが必要な事項	30	国語(書写を含む)	国語	2	2	30	「音楽」を修得済みであること
			社会	2	2			
			算数	2	2			
			理科	2	2			
			生活	2	2			
			音楽Ⅰ	1	1			
			音楽Ⅱ	1	2			
			図画工作Ⅰ	1	1			
			図画工作Ⅱ	1	1			
			家庭	2	2			
			体育Ⅰ	1	1			
			体育Ⅱ	1	2			
			外国語(英語)	2	1			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—							
情報通信技術の活用を含む)	国語(書写を含む)	2	3	◆	11	(幼小中共通開設)		
社会	2	3	◆					
算数	2	3	◆					
理科	2	3	◆					
生活	2	2	◆					
音楽	2	2	◆					
図画工作	2	2	◆					
家庭	2	2	◆					
体育	2	2	◆					
外国語	2	2	◆					
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2	1	◆	(幼小中共通開設)				
教職論	2	1	◆	(幼小中共通開設)				
教育社会学	2	2	◆	(幼小中共通開設)				
教育心理学	2	1	◆	(幼小中共通開設)				
特別支援教育入門	1	2	◆	(幼小中共通開設)				
教育課程論	2	2	◆	(小中共通開設)				
道徳の理論及び指導法	2	2	◆	(小中共通開設)				
総合的な学習の時間の指導法	1	3	◆	(小中共通開設)				
特別活動の指導法	2	3	◆	(小中共通開設)				
教育の方法及び技術	2	2	◆	(幼小中共通開設)				
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	2	2	◆	(幼小中共通開設)				
生徒指導の理論及び方法	2	3	◆	(小中共通開設)				
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	2	3	◆	(幼小中共通開設)				
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	2	3	◆	(幼小中共通開設)				
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(小幼)	1	3	5	注① (小中・小+コース) (幼保コース) (小中・小+コース) (幼保コース)	
			教育実習事前事後指導(幼小)	1	4			
			教育実習(小幼)	4	4			
			教育実習(幼小)	4	4			
			—					
学校体験活動 教職実践演習	2	4	◆	2	注②(幼小中共通開設)			
自ら学ぶが前提	人権教育	2	3	◆	2			

◇小学校の教員免許を取得しようとするものは「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)			3	◆	7日間(2年次の11月に説明会を予定)
-------------	--	--	---	---	---------------------

注① 実習内規を満たしたものに限る。

注② 当該免許状取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。教育実習(小幼)を辞退した場合は、履修を認めない。

履修要綱(二〇二四年度入学生)

履修要綱(二〇二四年度入学生)

⑦教育学科 教職課程<幼稚園教諭一種免許状>

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目			免許状	備考
		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 配当年次		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1 ◆	9	共通教育科目
体育	2	基礎体育学	1	1 ◆		共通教育科目
外国語コミュニケーション	2	健康行動学	2	1 ◆		共通教育科目
	2	総合英語Ⅰ	1	1 ◆		共通教育科目
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	総合英語Ⅱ	1	1 ◆		共通教育科目
	2	AIとデータサイエンス	2	1 ◆	共通教育科目	
		ICT基礎Ⅰ	1	1 ◇	2単位以上	共通教育科目
		ICT基礎Ⅱ	1	1 ◇		共通教育科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学で定められた授業科目			免許状	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択 配当年次		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	健康 人間関係 環境 言葉 表現 領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	子どもと健康	2	1 ◆	26 16単位を超えて修得した単位は★の単位数にすることができる	
		子どもと人間関係	2	2 ◆		
		子どもと環境	2	2 ◆		
		子どもと言葉	2	1 ◆		
		子どもと音楽表現Ⅰ	1	1 ◆		
		子どもと音楽表現Ⅱ	1	2 ◆		
		子どもと造形表現Ⅰ	1	1 ◆		
		子どもと造形表現Ⅱ	1	1 ◆		
		子どもと身体表現Ⅰ	1	1 ◆		
		子どもと身体表現Ⅱ	1	2 ◆		
保育内容(総論)	2	1 ◆				
保育内容(健康)	2	2 ◆				
保育内容(人間関係)	2	2 ◆				
保育内容(環境)	2	2 ◆				
保育内容(言葉)	2	2 ◆				
保育内容(表現)	2	2 ◆				
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育原理	2	1 ◆	11 10単位を超えて修得した単位は★の単位数にすることができる	
		教職論	2	1 ◆		
		教育社会学	2	2 ◆		
		教育心理学	2	1 ◆		
		特別支援教育入門	1	2 ◆		
		幼児教育課程論	2	3 ◆		
関連科目	通関の総合的な学習の指導法に関する科目 幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育方法・ICT活用論	2	2 ◆	5 4単位を超えて修得した単位は★の単位数にすることができる	
		子ども理解	1	3 ◆		
		教育相談	2	3 ◆		
教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	教育実習事前事後指導(小幼)	1	3 ◆	5 注①(小中・小+コース) 注②(小中・小+コース) 注③(小中・小+コース)	
		教育実習事前事後指導(幼小)	1	4 ◆		
		教育実習(小幼)	4	3 ◆		
		教育実習(幼小)	4	4 ◆		
		教職実践演習(幼小中)	2	4 ◆		
さらに大学が定める科目	大卒者 人権教育 免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した、他の区分の科目	人権教育	2	3 ◆	★14	
		免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した、他の区分の科目	2	3 ◆		

注① 実習内規を満たしたものに限る

注② 当該免許取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。教育実習(幼小)を辞退した場合は、履修を認めない。

⑨教育学科 特別支援教育に関する科目<特別支援学校教諭一種免許状>(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)

特別支援学校教諭とは、平成19年4月より従来の盲学校、聾学校、養護学校を統合した特別支援学校において、さまざまな障害のある子どもたちの教育に携わる教諭のことです。特別支援学校教諭は、通常の教育に関する知識や技術だけでなく、障害特性についての理解をふまえた関わりが求められます。特別支援学校のみならず、通常学級に在籍しているLD(学習障害)やADHD(注意欠陥/多動性障害)、あるいは高機能自閉症などの子どもたちに対する教育支援の役割も期待されています。

なお、本免許状の取得に際しては、学士の学位を有し、かつ、小学校教諭一種免許状を有することが前提条件となります。

《特別支援学校教育実習履修可能者》

- ①教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- ②1年次秋学期成績確定時(春学期の成績を含む)のGPAが特別支援学校教諭免許取得希望者の上位50名であること。なお、GPAが同点の場合は、「教育原理」「教育心理学」「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。
- ③上記内容とともに授業や説明会への取り組み態度なども合わせて総合的に判断することとする。

《特別支援学校教育実習履修者確定》

- ①特別支援学校教育実習説明会に出席していること。(説明会日時については、Microsoft Teams・Shinwa Smile.netにて連絡)
- ②「特別支援学校教育実習」の内規を満たしていること。

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目			特支	中心となる領域	含む領域
科目	授業科目名		卒業要件としての単位数 必修	選択	配当年次			
特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育基礎理論	2	1 ◆			
	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理	2	2 ◆	知的障害者		
			知的障害児の生理・病理	2	2 ◆	知的障害者		
			肢体不自由児の心理・生理・病理	2	2 ◆	肢体不自由者	知的障害者 病弱者	
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	病弱児の心理・生理・病理	2	3 ◆	病弱者	知的障害者 肢体不自由者	
			知的障害児教育論	2	2 ◆	知的障害者		
			知的障害児教育指導法	2	2 ◆	知的障害者	肢体不自由者 病弱者	
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	肢体不自由児教育論	2	1 ◆	肢体不自由者		
			病弱児教育論	2	3 ◆	病弱者		
			視覚障害児の心理・生理・病理	1	4 ◆	視覚障害者		
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	聴覚障害児の心理・生理・病理	1	2 ◆	聴覚障害者		
			視覚障害児教育指導法	1	4 ◆	視覚障害者		
	聴覚障害児教育指導法	1	2 ◆	聴覚障害者				
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害児教育Ⅰ	*	2	3 ◆	発達	重複	
発達障害児教育Ⅱ		*	2	4 ◆	発達	重複		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	教育実習事前事後指導(特)	1	4 ◆					
	教育実習(特)	2	4 ◆					

*含まれる領域 重複・言語・自閉・情緒・LD・ADHD

⑨スポーツ教育学科 教職課程<高等学校・中学校教諭一種免許状(保健体育)>

免許取得における必修科目は◆、選択科目は◇

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める必修科目	単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考
		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択	シラバス シラバス	高	中	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	◆	9	9	共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目
体育	2	基礎体育学 健康行動学	1 2	1 1	◆ ◆			
外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	1 1	1 1	◆ ◆			
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	AIとデータサイエンス ICT基礎Ⅰ ICT基礎Ⅱ	2 1 1	1 1 1	◆ ◆ ◆			

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目名	卒業要件としての単位数 必修	選択	シラバス シラバス	高	中							
教員及び教員の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28 24	体育実技	体ほぐし ダンス 器械運動 陸上運動 バレーボール バドミントン ソフトボール バスケットボール サッカー ラグビー 武道 水泳	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3 1 1 1 2 3 2 3 2 3 1	◆ ◆ ◆ ◆ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◆ ◆	16 20	◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆	16単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる					
			「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ原理 スポーツ心理学 学校体育経営論 スポーツ社会学 スポーツ運動学 スポーツバイオメカニクス	2 2 2 2 2 2	2 2 2 3 3 2	◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆								
			生理学(運動生理学を含む。)	スポーツ生理学 解剖生理学	2 2	2 2	◆ ◆								
			衛生学・公衆衛生学	公衆衛生学	2	2	◆								
			学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健 安全救急法	2 2	3 3	◆ ◆								
			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—											
			各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ	2 2 2 2	2 2 3 3	◆ ◆ ◆ ◆				8	8			
			教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	教育原理(中等)	2				2	◆	11	◆	10単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる
						教職論(中等)	2				1	◆			
						教育社会学(中等)	2				2	◆			
						教育心理学(中等)	2				2	◆			
			相対的に総合的な学習に関する科目	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 総合的な探求の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	10 8	道徳教育の指導法(中等)	2				3	◆	9	◆	10単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる
						総合的な学習の時間の指導法(中等)	1				3	◆			
						特別活動の指導法(中等)	2				2	◆			
教育方法・ICT活用論(中等)	2	2				◆									
教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動 教職実践演習	5 3 2	教育実習前事後指導(中等)	1	4	◆	5	◆	注①						
			教育実習Ⅰ(中等)	2	4	◆									
			教育実習Ⅱ(中等)	2	4	◆									
自ら学ぶ科目	人権教育 道徳教育の指導法(中等) 免許法施行規則に定める最低修得単位数を超えて修得した、他の区分の科目	4 12	人権教育	2	2	◆	★12	◆	★4						
			道徳教育の指導法(中等)	2	2	◆									
◇中学校の教員免許を取得しようとするものは「介護等の体験」は必修となり							◆		7日間(2年の1月に説明会を予定)						
◇介護等の体験(7日間)							◆		3						

注① 実習内規を満たした者に限る。
注② 当該免許状に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ(中等)を辞退した場合は、履修は認めない。

⑩教育実習

教育実習を履修するには別に定める「教育実習に関する内規」の要件を満たさなければならない。
また、「教育実習前事後指導」を併せて修得しなければならない。

⑪科目等履修制度

在学中に教育職員免許状の取得資格を得なかった本学卒業生が、その資格を得るために科目等履修生として教職科目を受講することができる。(科目等履修生規程)

◆神戸親和大学教育実習に関する内規

制定 昭和47年12月6日
最新改正 令和6年2月16日

(教育実習の履修資格 [1年次からの入学生])

- 第1条 教育実習を履修し得る学生は、学年始めの履修登録時において次の要件を満たしていなければならない。
- 1) 教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
 - 2) 神戸親和大学学則(昭和41年4月1日制定)第8条に定める卒業必要単位のうち「教育実習Ⅰ(中等)」、「教育実習Ⅱ(中等)」、「教育実習(中)」、幼稚園で実施する「教育実習(幼小)」、「教育実習(特)」を履修する場合は93単位以上、小学校で実施する「教育実習(小幼)」については、62単位以上を修得していること。
 - 3) 次に示す科目の単位を修得していること。なお、教科又は領域に関する専門的事項の必修科目については、実習前年度までに修得しておくことが望ましい。
ア 国際文化学科(ただし、2科目までの修得見込み可)
イ 中学校又は高等学校(国語)で実施する「教育実習Ⅰ(中等)」「教育実習Ⅱ(中等)」希望者
ウ 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、国語科教育法Ⅲ、教育原理(中等)、教職論(中等)、教育社会学(中等)、教育心理学(中等)、特別支援教育入門(中等)、教育課程論(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・ICT活用論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)、人権教育

育の指導法

- (イ) 幼稚園で実施する「教育実習(幼小)」希望者(次の科目のうち2科目まで修得見込み可)
保育内容(総論)、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、教育原理、教職論、教育社会学、教育心理学、特別支援教育入門、幼児教育課程論、教育方法・ICT活用論、人権教育
- (ウ) 「教育実習(特)」希望者(実習前年度までに「教育実習(小幼)」の履修要件科目を全て修得済みであること。ただし、次の科目のうち2科目まで修得見込み可)
特別支援教育基礎理論、知的障害児の心理、知的障害児の生理・病理、肢体不自由児の心理・生理・病理、病弱児の心理・生理・病理、知的障害児教育論、知的障害児教育指導法、肢体不自由児教育論、病弱児教育論、発達障害児教育Ⅰ
- (ロ) 中学校(数学)で実施する「教育実習(中)」希望者(実習前年度までに「教育実習(小幼)」の履修要件科目を全て修得済みであること。ただし、次の科目のうち1科目まで修得見込み可)
数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅱ、数学科教育法Ⅲ、特別活動の指導法、教育方法・ICT活用論、生徒・進路指導論、人権教育
- (オ) 中学校(英語)で実施する「教育実習(中)」希望者(実習前年度までに「教育実習(小幼)」の履修要件科目を全て修得済みであること。ただし、次の科目のうち1科目まで修得見込み可)
英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲ、特別活動の指導法、教育方法・ICT活用論、生徒・進路指導論、人権教育

(編入学生の教育実習履修資格)

- 第2条 教育実習を履修し得る編入学生は、学年始めの履修登録時において次の要件を満たしていなければならない。
- 1) 教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
 - 2) 次に示す科目の単位を修得していること。なお、教科又は領域に関する専門的事項の必修科目については、実習前年度までに修得しておくことが望ましい。
ウ 教育学科
イ 小学校で実施する「教育実習(小幼)」希望者(ただし、2科目までの修得見込み可)
教科教育法・生活、教科教育法・図画工作、教科教育法・家庭、教科教育法・体育、教科教育法・外国語(英語)、教育原理、教職論、教育社会学、教育心理学、特別支援教育入門、教育課程論、道徳教

- ア 国際文化学科(ただし、4科目まで修得見込み可)
 (ア) 中学校又は高等学校(国語)で実施する「教育実習Ⅰ(中等)」「教育実習Ⅱ(中等)」希望者
 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、国語科教育法Ⅲ、教育原理(中等)、教職論(中等)、教育社会学(中等)、教育心理学(中等)、特別支援教育入門(中等)、教育課程論(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・ICT活用論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)、人権教育

イ スポーツ教育学科(ただし、4科目まで修得見込み可)

- (ア) 中学校又は高等学校(保健体育)で実施する「教育実習Ⅰ(中等)」「教育実習Ⅱ(中等)」希望者
 保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱ、保健体育科教育法Ⅲ、教育原理(中等)、教職論(中等)、教育社会学(中等)、教育心理学(中等)、特別支援教育入門(中等)、教育課程論(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・ICT活用論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)、人権教育

ウ 教育学科

- (ア) 小学校で実施する「教育実習(小幼)」希望者(ただし、5科目まで修得見込み可)
 教科教育法(国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語(英語)のうち5科目以上)、教育原理、教職論、教育社会学、教育心理学、特別支援教育入門、教育課程論、道徳教育の指導法、特別活動の指導法、教育方法・ICT活用論、生徒・進路指導論、人権教育
 (イ) 幼稚園で実施する「教育実習(幼小)」希望者(ただし、4科目まで修得見込み可)
 保育内容(総論)、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、教育原理、教職論、教育社会学、教育心理学、特別支援教育入門、幼児教育課程論、教育方法・ICT活用論、人権教育

- (ウ) 中学校(数学)で実施する「教育実習(中)」

- 希望者(実習前年度までに「教育実習(小幼)」の履修要件科目を全て修得済みであること。もしくは小学校教諭免許状を取得済みであること。)
 数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅱ、数学科教育法Ⅲ
 (ウ) 中学校(英語)で実施する「教育実習(中)」希望者(実習前年度までに「教育実習(小幼)」の履修要件科目を全て修得済みであること。もしくは小学校教諭免許状を取得済みであること。)
 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲ

(その他の要件)

第3条 「教育実習(特)」を履修することができる学生は、第1条の要件を満たし、かつ、1年次秋学期成績確定時(春学期の成績を含む)のGPAが特別支援学校教諭免許状取得希望者の上位50名であること。なお、GPAが同点の場合は、「教育原理」「教育心理学」「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。

(教育実習受入校又は園の確保)

第4条 実習先については、出身校又は園の受け入れ及び大学の努力による斡旋が不可能な場合には、本人の努力によって受入校又は園の承諾を得よう図るものとする。
 2 「教育実習(特)」については、特別支援学校の設置校数が限定されるため、大学の斡旋する実習先が、遠方若しくは宿泊を伴う場合がある。

附 則(省略)

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第2条については、令和8年度以降に入学した編入学生から適用する。

● **保育士課程**

1. **保育士とは**

- ①保育士「児童福祉法」にもとづく国家資格で、『保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う者』をいう。「保育士」として保育の職業につくには、都道府県に保育士登録を行う(保育士登録制度)。
- ②保育士は、全国の保育所を中心に、児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設、障害児施設などの児童福祉施設等で保育や地域の子育て支援の仕事をする。また、認定こども園は保育士と幼稚園教諭免許が必要となる。

≪履修方法≫

1. 教 養 科 目 9単位以上(うち体育に関する講義及び実技、「総合英語Ⅰ・Ⅱ」の計5単位を含む)
2. 必 修 科 目 別表第1の欄に掲げる全ての科目
3. 選択必修科目 別表第2の欄に掲げる系列のうちから9単位以上(うち保育実習3単位以上を含む)保育士課程には人数制限があります。保育士課程履修可能者は下記3のとおり決定します。

2. **保育士資格の取得方法**

- ①厚生労働大臣指定の保育士養成施設に入学し、所定の単位を取得して卒業する。(本学教育学科は、2001年度入学生より指定校の認定を受けている。)
- ②都道府県知事が実施する保育士試験に合格する。

3. **保育士課程履修可能者**

- 1年次春学期成績確定後、下記①～③にて保育士課程履修可能者(幼保コース学生)120名を決定します。
- ①保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
 - ②1年次春学期成績確定時のGPAが保育士課程履修希望者の上位120名であること。なお、GPAが同点の場合は、「保育原理」「教育原理」「保育者論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「保育原理」「保育者論」の合計点数順とする。
 - ③「保育士課程履修説明会」に出席していること。(説明会日時については、[Shinwa Smile.net](http://ShinwaSmile.net)にて連絡)
 - ④上記①～③をすべて満たしていることが、保育士課程に入る条件である。また、春学期・秋学期の授業や説明会への取り組み、態度なども合わせて総合的に判断することとする。

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目				
系列	教科目	授業形態	設置単位	本学開講科目			備考	
				単位数	配当年次	備 考		
教養科目	外国語、体育以外の科目	講義	6以上	日本国憲法	4	2	1	共通教育科目
		講義		子どもと人権	2	2	1	
		講義		国際理解教育論	2	2	2	共通教育科目
		講義		子育てと社会	2	2	2	
	外国語	演習	2以上	総合英語Ⅰ	1		1	共通教育科目
				総合英語Ⅱ	1		1	共通教育科目
体育	実技	1	基礎体育学	1		1	共通教育科目	
			健康行動学	2		1	共通教育科目	
別表第1(必修科目)	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	2	2	1	
		教育原理	2	教育原理	2	2	1	
		子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	2	2	2	
		社会福祉	2	社会福祉論	2	2	3	
		子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論	2	2	3	
		社会的養護Ⅰ	2	社会的養護Ⅰ	2	2	1	
		保育者論	2	保育者論	2	2	1	
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2	教育心理学	2	2	1	
		子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	2	3	
		子どもの理解と援助	1	子どもの理解と援助	1	1	1	
		子どもの保健	2	子どもの保健	2	2	3	
子どもの良と未養	演習	2	子どもの良と未養	2	2	3		

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目				
系 列	教科目	授業形態	設置単位	本学開講科目	単位数		備考	
					必修	選択		
別表第一(必修科目)	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程論	2	3	
		保育内容総論	演習	1	保育内容(総論)	2	1	
		保育内容演習	演習	5	保育内容(健康)	2	2	
					保育内容(人間関係)	2	2	
					保育内容(環境)	2	2	
					保育内容(言葉)	2	2	
					保育内容(表現)	2	2	
		保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと音楽表現Ⅰ	1	1	
					子どもと音楽表現Ⅱ	1	2	
					子どもと造形表現Ⅰ	1	1	
					子どもと身体表現Ⅰ	1	1	
		保育実習	演習	4	乳児保育Ⅰ	2	2	
					乳児保育Ⅱ	1	2	
					子どもの健康と安全	1	3	
					障害児保育	2	3	
社会的養護Ⅱ	1				2			
子育て支援	1				4			
保育実習Ⅰ	4				2			
保育実習指導Ⅰ	2				1			
保育実習指導Ⅱ	2				2			
保育実習指導Ⅲ	2				4			
別表第二(選択必修科目)	保育の内容・方法に関する科目	15以上	6単位以上	保育の本質・目的に関する科目	2	1		
				保育の対象の理解に関する科目	1	3		
				保育学入門	2	3		
				子ども理解	2	1		
				障害児保育Ⅱ	2	1		
				子どもと健康	2	2		
				子どもと人間関係	2	2		
				子どもと環境	2	1		
				子どもと言葉	2	1		
				子どもと造形表現Ⅱ	1	1		
				子どもと身体表現Ⅱ	1	2		
				保育実習Ⅱ	3以上	2	3	
				保育実習指導Ⅱ	3以上	1	3	
				保育実習Ⅲ	3以上	2	3	
				保育実習指導Ⅲ	3以上	1	3	

4. 保育実習

保育士資格取得には「保育実習Ⅰ(保育所・施設)および「保育実習Ⅱ(保育所)もしくは「保育実習Ⅲ(施設)」の履修・修得が必要であり、同時に「保育実習指導ⅠA(保育所・施設)、「保育実習指導ⅠB(保育所・施設)および「保育実習指導Ⅱ(保育所)または「保育実習指導Ⅲ(施設)」を履修・修得しなければならない。

また、実習指導においては原則、欠席、遅刻、早退は認めない。

(実習要件)

①1年次秋学期成績確定後、保育実習Ⅰ履修者確定。

「保育実習指導ⅠA(保育所・施設)を修得済みであること。

「保育実習Ⅰ(保育所・施設)の内規を満たしていること。

※卒業要件単位数のうち、35単位以上を修得しており、「保育原理」「保育者論」「教育原理」を含んでいること。

②保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ履修者確定。

「保育実習Ⅰ(保育所・施設)を修得済みであること。

「保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習Ⅲ(施設)」の内規を満たしていること。

実習種別	履修方法		実習施設
	施設におけるおむねの実習日数	単位数(内訳)	
保育実習Ⅰ (必修科目)	20日	4 (2) (2)	保育所 乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター(児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一次保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設そのもの(園)
保育実習Ⅱ (選択必修科目)	10日	2	保育所
保育実習Ⅲ (選択必修科目)	10日	2	児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法例の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所及び幼保連携型認定こども園並びに小規模保育A・B型及び事業所内保育事業は除く。)

5. 保育実習の流れ

	時 期	保育士課程流れ	備考欄
1年次	5月～6月	◀保育士課程履修説明会▶	◇必ず出席すること。説明会日時についてはShinwa Smile.netで確認
	9月 (秋学期授業開始前)	◀保育士課程履修可能者の決定▶(120名)	●成績発表 ※Shinwa Smile.netで必ず確認
	(秋学期授業開始初回～)	保育実習指導ⅠA事前指導開始	※Shinwa Smile.netにて確認 保育実習Ⅰ実習先希望調査
	1月頃	(実習先配当先掲示)	
2年次	3月末	◀保育実習Ⅰ履修可能者決定▶(内規判定)	※下記参照「神戸親和大学教育学部保育士課程科目の履修に関する内規」
	4月	保育実習指導ⅠB事前指導開始	
	9月初旬～9月中旬	保育実習Ⅰ(保育所)	
	10月初旬～11月初旬	保育実習Ⅰ(施設)	
3年次	11月中旬	保育実習指導ⅠB事後指導	保育実習Ⅱ・Ⅲ選択 保育実習Ⅱ・Ⅲ実習先希望調査
	1月	(実習配当先掲示)	
	3月	◀保育実習Ⅱ・Ⅲ履修可能者決定▶(内規判定)	※下記参照「神戸親和大学教育学部保育士課程科目の履修に関する内規」
	4月	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ事前指導開始	
4年次	8月中旬～9月	保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習Ⅲ(施設)	
	10月以降	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ事後指導	
4年次	10月初旬	◀保育士登録説明会▶	

※「保育実習Ⅰ(保育所・施設)」は必修、「保育実習Ⅱ(保育所)」「保育実習Ⅲ(施設)」はどちらかを選択履修のこと。
 ※1年次「保育実習Ⅰ(保育所・施設)」の実習先については、秋学期授業の初回で説明。原則、大学配当、下宿の方は、地元へ帰っての実習も可能である。
 ※Ⅰ・Ⅱの保育所での実習は、原則、同じ保育所とする。
 ※Ⅰ・Ⅲの施設は、実習受け入れ先が少ないため、宿泊や交通費がかかることがある。

◆神戸親和大学教育学部保育士課程科目の履修に関する内規

制定 平成20年9月24日
最新改正 令和3年6月25日

(趣旨及び課程の履修資格)

- 第1条 神戸親和大学学則(昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。)、第8条第7項に基づき科目の履修について定める。
- 2 保育士課程を履修し得る学生は、当該学科の1年次入学生で、保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望してなければならない。
- 3 教育学科における入学定員195名のうち、保育士課程指定定員は120名とする。
- 4 前項に定める保育士課程指定定員を超える希望者があられる場合の保育士課程履修可能者の決定方法については、別にこれを定める。

(保育実習の履修資格)

- 第2条 保育実習を履修し得る学生は、次の要件を満たしてなければならない。
- (1) 教育学科

- ア 保育実習Ⅰ(保育所・施設)
- イ 学則第8条に定める卒業要件単位数のうち、35単位以上を修得していること。
- ロ 学則第8条に定める卒業要件単位数のうち、35単位以上を修得していること。
- ハ 保育原理、教育原理、保育者論、保育実習指導ⅠA(保育所・施設)

- ニ 保育実習Ⅱ(保育所)及び保育実習Ⅲ(施設)
- イ 保育実習Ⅰ(保育所・施設)を修得済みであること。
- ロ 次の科目を修得していること。ただし、3科目まで修得見込み可とする。
- 子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ、教育心理学、子どもの理解と援助、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、乳児保育論、乳児保育演習、社会的養護Ⅱ

(保育士課程科目の授業及び単位数の計算)

第3条 保育士課程科目の授業及び単位数の計算は、学則第9条に定めるところによる。ただし、保育実習Ⅰ(保育所・施設)、保育実習Ⅱ(保育所)、保育実習Ⅲ(施設)については40時間の授業をもって1単位、保育実習指導ⅠA(保育所・施設)、保育実習指導ⅠB(保育所・施設)、保育実習指導Ⅱ(保育所)、保育実習指導Ⅲ(施設)については30時間の授業をもって1単位とする。

(保育実習の日時数)

第4条 保育実習の実施に当たっては、その期間中に、10日以上80時間以上を確保する。

(評価方法)

第5条 保育士課程科目の評価については、2/3以上の出席を必要とし、レポート、試験、実習などにより総合的に評価を行う。ただし、保育実習事前事後指導及び保育・教職実践演習(幼)については、4/5以上の出席を必要とする。

附 則

1 この内規は、平成21年4月1日から施行する。

2 この内規の施行の日をもって、神戸親和大学保育実習に関する内規(平成13年3月7日制定)は廃止する。

附 則(省略)

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

● 司書教諭課程(国際文化学科・教育学科・スポーツ教育学科対象)

司書教諭とは学校図書館に関する専門的な知識・技術を修得した教員のことです。この司書教諭の学校図書館配置については、平成9年6月、「学校図書館法」の一部改正が行われて、平成15年4月1日以降は、12学級以上の全ての学校図書館には司書教諭を配置しなければならなくなりました。また、平成10年3月には、「学校図書館司書教諭講習規程」の一部改正が行われ、その講習内容の現代化と、それに教員免許取得前の受講がはじめて可能(大学に2年以上在学する学生で62単位以上を修得した者)になりました。本学でもこれを機に、平成12年度より「司書教諭課程」を新設し、「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」(5科目10単位)の科目を開講して、本学在学中に司書教諭資格取得の便を計っております。

なお、この司書教諭の資格は、司書資格とは異なり、**教員免許状を取得することが絶対条件となります**ので「教職課程」の科目とは並行受講することになります。したがって必修科目等との重なりがでてきて思わぬアクシデントに見舞われるかもしれませんので、「司書教諭課程」を受講する場合は、すべて早目に受講計画を立てて、そして着実に忍耐強く学習してください。

◇必修科目5科目10単位を修得してください。

◇下記単位を修得したものは、文部科学省より「学校図書館司書教諭講習修了証書」が授与されます。ただし、この証書は、教育職員免許法に定める学校教諭の普通免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)を有する者について効力を生じますので、注意してください。

授業科目名	単 位		配当年次	備 考
	必 修	選 択		
に司書教諭資格取得に関する科目	学校経営と学校図書館	2	1	
	学校図書館メディアの構成	2	2	
	学習指導と学校図書館	2	1	
	読書と豊かな人間性	2	2	
	情報メディアの活用	2	2	

〈重 要〉

◇大学を通じて、文部科学省に「学校図書館司書教諭講習(書類参加)」申請書類を一括提出します。申請手続きについては、11月下旬に [Shinwa Smile.net](http://ShinwaSmile.net) でお知らせします。(教員免許状の手続きとは異なりますので、注意してください。)

● 司書課程(全学科対象)

図書館法には、「図書館とは、図書、記録、その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と規定しています。またそこに勤務する職員について「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する」とし「司書は、図書館の専門的事務に従事する」とも規定されており、図書館の専門職員として十分な知識を備えた司書を、各図書館に配置するようになっています。したがって、卒業後、図書館へ就職を希望する際には、司書の資格を取得しておくことが必要な条件となります。さらに官庁、学校、あるいは新聞社、放送局、各種企業等においても、図書館、あるいは資料室などの要員として、司書有資格者は歓迎される傾向が出てきています。また、その図書館法には、その資格取得の条件として「大学を卒業した者で大学において図書館に関する科目を履修したもの」としてあり、本学では、図書館司書に関する科目を設けて、司書資格の取得に便宜を計っています。この図書館司書に関する科目に耳慣れない科目もあり、また、かなり実務的な面の強い科目でもあります。その点では、これら司書課程の科目もまた、各学科の専門科目の例にもれず忍耐強く学習していただくかねばならない科目でもあります。

◇司書課程の全必修科目及び選択科目から2科目以上、合計26単位以上を修得すれば司書となる資格が与えられ、卒業時に「図書館司書資格証明書」が授与されます。

授業科目名	単 位		配当年次	備 考	
	必 修	選 択			
司書資格取得に関する科目	必修科目	生涯学習概論	2	2	
		図書館概論	2	1	
		図書館情報技術論	2	2	
		図書館制度・経営論	2	3	
		図書館サービス概論	2	2	
		情報サービス論	2	3	
		児童サービス論	2	2	
		情報サービス演習Ⅰ	1	3	
		情報サービス演習Ⅱ	1	3	
		図書館情報資源概論	2	2	
		情報資源組織論	2	3	
		情報資源組織演習Ⅰ	1	4	
		情報資源組織演習Ⅱ	1	4	
選択科目	(4) (2科目以上必修)	図書館基礎特論	2	4	
		図書館サービス特論	2	4	
		図書・図書館史	2	3	
		図書館施設論	2	3	

● 日本語教員資格関係科目（主専攻）（国際文化学科対象）

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主に外国人）に日本語を外国語として教授する教員資格をいいます。本学では、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格する能力をつけることを目標として下記の科目を開講しています。これらの科目を修得した者は、卒業時にそれぞれ「日本語教育科目単位修得証明書」が授与されます。

日本語教員資格関係科目（主専攻）の履修については、
必修科目30単位以上及び選択科目として「言語と心理」区分から4単位を含む15単位以上、合計45単位以上修得すること。
 ここでいう必修及び選択は、日本語教員資格を取得するためのことを示しています。
 ◆他学科より提供された科目はエクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。
 ◆提供元が共通教育となっている科目は、共通教育科目の卒業要件単位として認定されます。

区分	授業科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
社会文化地域	東アジア文化論	2		1	国際文化学科	
	国際ボランティア論	2		1	国際文化学科	
	日本文化体験	2	2	2	国際文化学科	人数制限あり
	日本文化史	2		3	国際文化学科	
	国際文化概論	2		1	国際文化学科	
	社会イノベーション論	2	2	2	国際文化学科	
	デザイン思考論	2		1	国際文化学科	
	日本文学史	2		1	国際文化学科	
	マンガ・アニメと日本のポピュラーカルチャー	2	3	3	国際文化学科	
	比較文化論	2	3	3	国際文化学科	
	女性学	2		1	共通教育	
	多文化社会	2	2	2	共通教育	
	言語と社会	メディア・リテラシー論	2		2	共通教育
社会言語学		2		3	国際文化学科	
異文化コミュニケーション論		2		3	教育学科	
情報とコミュニケーション		2		1	国際文化学科	
言語と心理	国際理解教育論	2		2	共通教育	
	知覚・認知心理学	2		2	心理学科	
	教育・学校心理学	2		3	心理学科	「言語と心理」区分から4単位以上修得すること。
	心理学概論	2		1	共通教育	
言語と教育	教育心理学（中等）	2		2	教職課程	
	日本語教授法（初級）	2		2	国際文化学科	
	日本語教授法（中上級）	2		3	国際文化学科	
	コースデザインと多文化協働	2	3	3	国際文化学科	
	情報とデザイン	2	2	2	国際文化学科	
	日本語教育実習（海外）	2		2	国際文化学科	海外か国内のいずれかを修得すること。
	日本語教育実習（国内）	2		4	国際文化学科	
言語	プレゼンテーションの技法	2	2	2	国際文化学科	
	情報と社会	2	2	2	共通教育	
	日本語音声学	2		2	国際文化学科	
	日本語史	2		3	国際文化学科	
	日本語概論	2		2	国際文化学科	
	日本語文法（現代）	2		3	国際文化学科	
	日本語文法（古典）	2		2	国際文化学科	
英語学	英語学概論	2		2	教育学科	
	話し方の技術	2		2	国際文化学科	
	文章の技術	2		1	国際文化学科	

● 日本語教員資格関係科目（副専攻）（全学科対象）

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主に外国人）に日本語を外国語として教授する教員資格をいいます。本学では、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格する能力をつけることを目標として下記の科目を開講しています。これらの科目を修得した者は、卒業時にそれぞれ「日本語教育科目単位修得証明書」が授与されます。

日本語教員資格関係科目（副専攻）の履修については、
必修科目20単位以上及び選択科目として「言語と心理」区分から2単位を含む6単位以上、合計26単位以上修得すること。
 ここでいう必修及び選択は、日本語教員資格を取得するためのことを示しています。
 ◆他学科より提供された科目はエクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。
 ◆提供元が共通教育となっている科目は、共通教育科目の卒業要件単位として認定されます。

区分	授業科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
社会文化地域	東アジア文化論	2		1	国際文化学科	
	国際ボランティア論	2		1	国際文化学科	
	日本文化体験	2	2	2	国際文化学科	人数制限あり
	日本文化史	2		3	国際文化学科	
	国際文化概論	2		1	国際文化学科	
	社会イノベーション論	2	2	2	国際文化学科	
	デザイン思考論	2		1	国際文化学科	
	日本文学史	2		1	国際文化学科	
	マンガ・アニメと日本のポピュラーカルチャー	2	3	3	国際文化学科	
	比較文化論	2	3	3	国際文化学科	
	女性学	2		1	共通教育	
	多文化社会	2	2	2	共通教育	
	言語と社会	メディア・リテラシー論	2		2	共通教育
社会言語学		2		3	国際文化学科	
異文化コミュニケーション論		2		3	教育学科	
情報とコミュニケーション		2		1	国際文化学科	
言語と心理	国際理解教育論	2		2	共通教育	
	知覚・認知心理学	2		2	心理学科	
	教育・学校心理学	2		3	心理学科	「言語と心理」区分から2単位以上修得すること。
	心理学概論	2		1	共通教育	
言語と教育	教育心理学（中等）	2		1	教育学科のみ履修可	
	教育心理学（中等）	2		2	教職課程	
	日本語教授法（初級）	2		2	国際文化学科	
	日本語教授法（中上級）	2		3	国際文化学科	
	コースデザインと多文化協働	2	3	3	国際文化学科	
	情報とデザイン	2	2	2	国際文化学科	
	日本語教育実習（海外）	2		2	国際文化学科	海外か国内のいずれかを修得すること。
言語	日本語教育実習（国内）	2		4	国際文化学科	
	プレゼンテーションの技法	2	2	2	国際文化学科	
	情報と社会	2	2	2	共通教育	
	日本語音声学	2		2	国際文化学科	
	日本語史	2		3	国際文化学科	
	日本語概論	2		2	国際文化学科	
	日本語文法（現代）	2		3	国際文化学科	
英語学	日本語文法（古典）	2		2	国際文化学科	
	英語学概論	2		2	教育学科	
	話し方の技術	2		2	国際文化学科	
	文章の技術	2		1	国際文化学科	

● 上級情報処理士資格関係科目（国際文化学科・心理学科対象）

上級情報処理士とは、全国大学実務教育協会が認定する資格で、社会人に出て実務を行うものとして必要となる情報通信技術の知識やスキルを身につけ、ユーザーとして技術を活用するにとどまらず、情報を積極的に発信し、問題発見・課題解決に向けて提案・貢献できることが求められます。

この資格の認定を受けるには、必修科目8単位、選択科目16単位以上を修得する必要があります。

また、この資格の取得には、申請書類の大学への提出および申請費用(7,700円)が必要です。

区分	本学開講科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
領域1	情報社会への参画と倫理	2		1		
	情報と社会		2	2	共通教育	
	メディア・リテラシー論		2	2	共通教育	
	ウェブデザイン		2	3		
	デジタル表現		2	1		
情報とデザイン		2	2			
領域2	情報基礎論	2		1		
	プログラミングⅠ	2		1		
	プログラミングⅡ		2	2		
	WEBプログラミング入門		2	3		
	ネットワークと情報セキュリティ		2	3		
	情報と統計		2	1		
AIとデータサイエンス		2	1	共通教育		
領域3	情報とコミュニケーション	2		1		
	プロジェクトベーストレーニング演習Ⅰ		2	2		
	プロジェクトベーストレーニング演習Ⅱ		2	3		
	プレゼンテーションの技法		2	2		
	インターンシップA		1	2	共通教育	
	インターンシップB		1	2	共通教育	

● プレゼンテーション実務士資格関係科目（国際文化学科対象）

プレゼンテーション実務士とは、全国大学実務教育協会が認定する資格で、プレゼンテーションを通じて自分の意見を具体的にわかりやすく説明し、理解してもらうためのコミュニケーション能力と、そのためにICTを活用する能力が求められます。

この資格の認定を受けるには、必修科目6単位、選択科目10単位以上を修得する必要があります。

また、この資格の取得には、申請書類の大学への提出および申請費用(5,500円)が必要です。

区分	本学開講科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
領域1	ICT基礎Ⅰ	1		1	共通教育	
	ICT基礎Ⅱ	1		1	共通教育	
	情報社会への参画と倫理		2	1		
領域2	プレゼンテーションの技法	2		2		
	情報とデザイン		2	2		
	日本語リーディング&ライティングⅠ		1	2		
	日本語リーディング&ライティングⅡ		1	2		
	日本語表現法		2	2		
	文章の技術		2	1		
領域3	話し方の技術		2	2		
	情報とコミュニケーション	2		1		
	プロジェクトベーストレーニング演習Ⅰ		2	2		
プロジェクトベーストレーニング演習Ⅱ		2	3			

● 認定心理士資格要件（心理学科対象）

認定心理士の資格認定を受けようとするものは、下記の開講科目から合計36単位以上を修得し、所定の申請書類を日本心理学会認定心理士資格委員会に提出しなければなりません。

なお、履修に当たっては、次の事項に注意してください。

◇基礎科目（a）領域から4単位以上、（b）（c）領域から計8単位以上修得し、合計で12単位以上修得すること。ただし、（c）領域からは4単位を修得すること。

◇選択科目（d）～（h）の5領域のうち、3領域で各4単位以上を満たし、合計が16単位以上になるように修得すること。

◇残りの8単位以上は（a）～（i）の任意の科目で充当すること。

・「学習心理学」は、エクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。

	認定領域	本学開講科目名	単位数	配当年次	提供元	備考
基礎科目	(a) 心理学概論	心理学概論	2	1	共通教育	
		発達心理学概論	(2)	1		1単位のみ認定
		臨床心理学概論	(2)	1		1単位のみ認定
	(b) 心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	2	2		
		心理学研究法Ⅱ	2	3		
		心理学統計法	2	2		
多変量解析		2	4			
情報と統計		(2)	1		1単位のみ認定	
基礎科目	(c) 心理学実験・実習	心理学実験・実習A	1	1		
		心理学実験・実習B	1	1		
		心理学実験	1	3		
		社会心理学実験・実習	1	2		
選択科目	(d) 知覚心理学 学習心理学	学習・言語心理学	2	2	教育学科	
		学習心理学	2	2		
		知覚・認知心理学 色彩心理学	(2)	2		1単位のみ認定
	(e) 比較心理学 生理心理学	神経・生理心理学	2	3		
		神経心理学	2	2		
	(f) 教育心理学 発達心理学	発達心理学	2	2		
		教育・学校心理学 青年心理学	(2)	2		
	(g) 臨床心理学 人格心理学	感情・人格心理学	2	1		
		健康・医療心理学	(2)	2		1単位のみ認定
		発達臨床心理学Ⅰ	2	2		
		発達臨床心理学Ⅱ	2	2		
		カウンセリング	2	3		
		障害者・障害児心理学	2	3		
		精神疾患とその治療	(2)	3		1単位のみ認定
福祉心理学		2	2			
司法・犯罪心理学		2	3			
臨床心理学実習		1	2			
(h) 社会心理学 産業心理学	社会・集団・家族心理学	2	2			
	産業・組織心理学	2	3			
	家族心理学	2	1			
	紐いの心理学	2	1			
その他の科目	(i) その他の科目	心理学専門演習Ⅰ	2	3		
		心理学専門演習Ⅱ	2	3		
		心理学専門演習Ⅲ	2	4		
		心理学専門演習Ⅳ	2	4		
		卒業研究	(6)	4		卒業研究は6単位のうち4単位まで認定
		音楽心理学	2	2		
		スポーツ心理学	2	2		

「その他の科目」以外の各領域は「基本主題」と「副次主題」のいずれかに分類され、各領域で少なくとも2単位は「基本主題」に属する単位でなければならない。副次主題の科目については、備考欄に記載。副次主題の単位は1/2（例えば2単位の科目なら1単位）だけしか認められない。詳細については認定資格細則別表（日本心理学会発行）を参照すること。

認定心理士の申請について

認定心理士の資格認定を受けようとする者は、4年次の学年末に開かれる申請説明会に出席すること。詳細については掲示します。

なお、資格審査料に11,000円、資格認定料に30,000円必要となります。

● 公認心理師試験受験資格要件（心理学科対象）

公認心理師試験受験資格を得るためには、公認心理師法（平成27年法律第68号）に規定する下記の開講科目の25科目を修得し、大学院において省令で定める科目を履修する（区分：法第7条1号）または、省令で定める期間に省令で定める施設において実務経験（区分：法第7条2号）が必要になります。

省令とは、公認心理師法施行規則（平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号）において規定されています。

なお、履修に当たっては、次の事項に注意してください。

- ・全て資格取得における必修科目になります。
- ・「心理学概論」は、共通教育科目の選択科目に含めることができます。

公認心理師欄のⅠ～Ⅴは、公認心理師受験資格要件のための各領域を表します。

Ⅰ (②～⑥)：心理学基礎科目

Ⅱ (⑦～⑬)：心理学の基礎的理論に関する科目

Ⅲ (⑭、⑮、⑲及び⑳)：心理状態の観察及び分析並びに心理に関する相談、助言、指導、その他の援助等についての基本的理論及び実践に関する科目

Ⅳ (㉑～㉔)：主な職域における心理学に関する科目

Ⅴ (㉕、㉖)：心理学関連科目

①及び㉑については、公認心理師特有の科目

指定科目	本学開講科目名	単位数	配当年次	提供元	
Ⅰ	① 公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	3	共通教育
	② 心理学概論	心理学概論	2	1	
	③ 臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	1	
	④ 心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	2	2	
	⑤ 心理学統計法	心理学統計法	2	2	
	⑥ 心理学実験	心理学実験	1	3	
Ⅱ	⑦ 知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	2	
	⑧ 学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2	
	⑨ 感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	1	
	⑩ 神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	3	
	⑪ 社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	2	
	⑫ 発達心理学	発達心理学	2	2	
Ⅲ	⑬ 障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	3	
	⑭ 心理的アセスメント	心理的アセスメント	1	3	
Ⅳ	⑮ 心理学的支援法	心理学的支援法	2	2	
	⑯ 健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	2	
	⑰ 福祉心理学	福祉心理学	2	2	
	⑱ 教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3	
	⑲ 司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	3	
	㉑ 産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	3	
Ⅴ	㉒ 人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	3	
	㉓ 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	3	
Ⅲ	㉔ 関係行政論	関係行政論	2	3	
	㉕ 心理演習	心理演習	2	3	
	㉖ 心理実習	心理実習	2	3	

※心理実習の受講に関しては、入学（編入学）してから2年間で取得可能な公認心理師カリキュラム関連科目を取得した上で、2年間の全体の成績と面接で選抜する

● 公認スポーツ指導者（スポーツ教育学科対象）

公認スポーツ指導者とは、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる者のことです。本学スポーツ教育学科は、公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）公認スポーツ指導者養成カリキュラムの適応コースとして認可されています。資格要件に関わる全ての科目の単位を修得することで、共通科目Ⅲコースの検定試験（オンラインテスト）の受験資格が得られ、試験に合格することによって「共通科目Ⅲ」の修了証明書及び①の資格が得られます。「共通科目Ⅲ」は、日本スポーツ協会の各競技別の指導者資格（コーチ1、コーチ2、コーチ3、教師）の共通科目を修了したことになります。また、②、③の受験資格も得ることができます。

①コーチングアシスタント（受験資格）

地域におけるスポーツグループやサークル等において、上位資格者を補佐する者として、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。日本スポーツ協会が定める「共通科目Ⅲコース」に対応する本学の科目（下表）を修得し、共通科目検定試験を経て取得できます。

②ジュニアスポーツ指導員（受験資格）

地域スポーツクラブ等において、幼少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行う方のための資格です。この資格は下表に示した科目の単位を修得した後、日本スポーツ協会実施の検定試験を経て取得できます。なお、この資格取得は中学校・高等学校教員免許状（保健体育科）取得希望者に限ります。

③アシスタントマネジャー（受験資格）

総合型地域スポーツクラブ等において、クラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントの諸活動をサポートする方のための資格です。この資格は下表に示した科目の単位を修得した後、日本スポーツ協会実施の検定試験を経て取得できます。

資格取得における必修科目は◆

授業科目名	卒業要件としての単位		コアファンクション科目単位	配当年次	資格要件			備考
	必修	選択			コーチングアシスタント	ジュニアスポーツ	アシスタントマネジャー	
スポーツ教育学総論	2			1	◆	◆	◆	（公財）日本スポーツ協会が定める共通科目Ⅲコースに対応する科目
ジュニアスポーツ指導者論	2			3	◆	◆	◆	
スポーツカウンセリング総論		2		2	◆	◆	◆	
障がい者スポーツ総論		2		2	◆	◆	◆	
スポーツマネジメント総論		2		2	◆	◆	◆	
コーチング論		2		4	◆	◆	◆	
スポーツ生理学		2		2	◆	◆	◆	
トレーニング論		2		2	◆	◆	◆	
スポーツ栄養学		2		2	◆	◆	◆	
スポーツ心理学		2		2	◆	◆	◆	
スポーツバイオメカニクス		2		2	◆	◆	◆	
スポーツ医学		2		3	◆	◆	◆	
安全救急法		2		3	◆	◆	◆	
ジュニアスポーツ実践		2		2		◆		
教育実習Ⅰ（中等）			2	4				教職課程科目
地域スポーツ経営論		2		3			◆	
体力測定評価		2		2		◆		

※資格取得にあたっては、日本スポーツ協会指定の指導者マイページの作成及びリファレンスブック（税込4,400円）の購入が必須です。また、基本登録料として10,000円/4年間（保有する資格数に関わらず、一律でかかる登録料）及び、初期登録手数料として3,000円/1資格（その資格を初めて登録する際に関わる手数料）などが必要になります。

● 公認パラスポーツ指導員（初級・中級）(スポーツ教育学科対象)

公益財団法人日本パラスポーツ協会公認の専門資格であり、障がい者の適性に合ったスポーツ・レクリエーションを通じて、健康の維持増進と競技力向上に寄与する責務を持った専門資格です。

初級指導員資格は身近な障がい者を対象とし、障がい者の障がい内容に基づいた健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させ、それらを生活化（習慣化）にむけて促進させる指導技術を習得した者に与えられます。

中級指導員資格は県内レベルの身近なパラスポーツの指導にあたる者で、障がい者の指導方法（専門的知識と高度な指導技術）に熟練した者に与えられます。

本学スポーツ教育学科は平成20年4月よりパラスポーツ指導員の養成認定校（大学）として認可されました。在学中に下表に示した科目の単位を修得し、卒業をもって初級指導員資格又は中級指導員資格を得ることができます。（ただし、中級は指導実績＜約10日、80時間＞が必要です。）

これらの資格取得者は卒業後、教職、福祉系公務員、福祉系施設職員等としての活躍が期待されます。パラスポーツ指導員資格は、中高保健体育教職や公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格と併せて取得する事で将来の選択肢が広がります。

資格取得における必修科目は◆、選択科目は◇

授業科目名	卒業要件としての単位		配当年次	資格要件		備考
	必修	選択		初級	中級	
ジュニアスポーツ指導者論		2	3	◆	◆	
スポーツ社会学		2	1	◆	◆	
スポーツカウンセリング総論		2	2	◆	◆	
障がい者スポーツ総論		2	2	◆	◆	
陸上運動		1	1		◆	
水泳		1	1		◆	
ソフトボール		1	3		◇	1科目選択必修
バスケットボール		1	2		◇	
バレーボール		1	2		◇	
スポーツ生理学		2	2	◆	◆	
スポーツ心理学		2	2	◆	◆	
スポーツ医学		2	3	◆	◆	
安全救急法		2	3		◆	
障がい者スポーツ演習		2	4	◆	◆	

※指導実績＜中級80時間（約10日）＞が必要となります。

指導実績とは、パラスポーツイベント及びパラスポーツ施設でのボランティア等の指導実績を指します。

※資格取得にあたっては、認定料・申請手数料5,500円、年会費（毎年3,800円）（令和5年度実績）が必要となります。

● 健康運動実践指導者受験資格（スポーツ教育学科対象）

健康運動実践指導者とは、健康づくりのための運動実践指導のエキスパートとして、地域社会での健康運動指導を行うことが出来ると認められるための資格です。健康運動実践指導者には、医学的な基礎知識、運動生理学の知識などに立脚した補強運動の実践指導が求められます。具体的には、健康づくりを目的に作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビック・ダンス、ストレッチング、筋力・筋持久力トレーニングといった補強運動の実践指導を行います。

本学が開講する下記の科目を修得し、公益財団法人健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格すれば、健康運動実践指導者の資格を取得することができます。資格取得後は、保健所や病院、老人福祉施設、民間健康増進施設等での活躍が期待されます。

資格取得における必修科目は◆

授業科目名	卒業要件としての単位		配当年次	資格要件	備考
	必修	選択		必修	
健康運動実践		2	1	◆	
スポーツ生理学		2	2	◆	
体力測定評価		2	2	◆	
スポーツ医学		2	3	◆	
スポーツ栄養学		2	2	◆	
スポーツ心理学		2	2	◆	
スポーツバイオメカニクス		2	2	◆	
エアロビックダンス		1	3	◆	
陸上運動		1	1	◆	
水泳		1	1	◆	

※資格取得にあたっては、3年次春学期までに資格要件の単位を修得すると受験資格（3年次または4年次までに2回の受験が可能）を得ることができます。

※公益財団法人健康・体力づくり事業財団が主催する認定試験の受験料は26,400円（令和6年度より変更）、認定試験に合格すると登録申請料の22,000円（令和5年度実績）が別途必要です。

※なお、登録は5年間有効で、所定の講習会を受講することにより、登録更新（更新料22,000円：令和5年度実績）することができます。

● 社会福祉主事（任用資格）（全学科対象）

社会福祉主事任用資格は、大学において以下のような「社会福祉主事の資格に関する指定科目」を修めて卒業した者が、都道府県、市町村の行政職や福祉職等の公務員試験に合格して、福祉事務所等のケースワーカーに採用される場合にいきってくる資格であり、いわゆる任用資格とされるものです。

また、最近では、老人福祉施設や児童福祉施設などの指導員や社会福祉協議会の福祉活動専門員もこの資格を取得することが望ましいとされています。

<社会福祉主事に関する科目指定>（平成21年度以降入学生から適用）

社会福祉概論、社会福祉事業史、社会福祉援助技術論、社会福祉調査論、社会福祉施設経営論、社会福祉行政論、社会保障論、公的扶助論、児童福祉論、家庭福祉論、保育理論、身体障害者福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、老人福祉論、医療社会事業論、地域福祉論、法学、民法、行政法、経済学、社会政策、経済政策、心理学、社会学、教育学、倫理学、公衆衛生学、医学一般、リハビリテーション論、看護学、介護概論、栄養学、家政学

<指定科目の読み替えの範囲とする本学開講科目>

平成21年度以降入学生に対しては、平成20年7月31日社援発第0731002号 厚生労働省社会・援護局長通知にて、指定科目の読み替え範囲が示されましたが、その範囲とする本学の開講科目は次頁のとおりです。

読み替え科目【本学開講科目】の単位をそれぞれの「指定科目」から1科目（複数科目ある場合はすべて）以上を修得し、資格に関する指定科目として3科目以上の単位を修得すること。本学開講科目から3科目ではなく、指定科目から3科目修得しなければなりません。

※教育学科で保育士資格を取得する学生は、本資格の科目を修得したことになります。

社会福祉主事読み替え科目一覧

指定科目	読み替え科目【本学開講科目】	科目区分又は開設学科
社会福祉概論	社会福祉論	教育学科
社会福祉事業史	—	—
社会福祉援助技術論	—	—
社会福祉調査論	—	—
社会福祉施設経営論	—	—
社会福祉行政論	—	—
社会保障論	—	—
公的扶助論	—	—
児童福祉論	子ども家庭福祉	教育学科
家庭福祉論	—	—
保育理論	保育原理	教育学科
身体障害者福祉論	—	—
知的障害者福祉論	—	—

指定科目	読み替え科目【本学開講科目】	科目区分又は開設学科
精神障害者保健福祉論	—	—
老人福祉論	—	—
医療社会事業論	—	—
地域福祉論	—	—
法学	法学	共通教育科目
民法	—	—
行政法	—	—
経済学	経済学	共通教育科目
社会政策	—	—
経済政策	—	—
心理学	心理学概論	共通教育科目
社会学	社会学	共通教育科目
教育学	教育原理	教育学科
	教育学概論	スポーツ教育学科
倫理学	—	—
公衆衛生学	公衆衛生学	スポーツ教育学科
医学一般	—	—
リハビリテーション論	—	—
看護学	—	—
介護概論	—	—
栄養学	栄養学	共通教育科目
家政学	—	—